臺灣新民報 夕刊
四月十七日
夕刊定價一部一錢
編輯兼發行人 佐々木 寧
發行所 臺北市榮町四丁目 臺灣日日新報社
基隆市地町 電話一五五番 臺中市西町 電話一五五番 臺南市開山町 電話一五五番
花蓮港街入船町 電話一五五番
大阪支局 大阪市西區阿波座堀通一丁目 大阪ビルデイング内
東京支局 東京市芝區櫻田本郷町 電話銀座一八一番

ル大統領の平和要請
獨は拒否か默殺
も亦同一の歩調
伊太利も亦同一の歩調

【ロンドン十六日發同盟】ルーズベルト米大統領の平和要望メツセーヂに對し獨、伊兩國が如何なる態度に出づるかは歐洲新情勢への鍵を握るものとして注視されてゐるが十六日各國首都よりロンドンに集つた報道に依ればヒトラー獨總統はル大統領の要請に對し斷乎これを拒否するか又は全然默殺して回答を發しないかと見られる、一方イタリー政府はドイツ政府程對米國感情も惡化してゐるのではないがロンドン外交界では一般にこの際イタリーがドイツと離れて獨自の政策をはゐないかとは到底あり得ないとされてゐる

現狀維持は不可
自力によらねば解決策なしと
獨紙、英佛の態度を論難

【フランクフルト十六日發同盟】フランクフルターツアイツング紙は十六日の社說において歐洲現狀維持の協力を拒否する英佛の態度を論駁して左の通り論じた

今後も歐洲幾多の重大變革が行はれ幾多の重要なる經濟問題が解決されねばならない、今や現狀維持は不可能となつたのである、しかしながら英、佛兩國が飽くまで全體主義諸國の修正要求に對し反對してゐるが、これら諸國が協力を拒否する以上最早全體主義國にとつては自力によつて解決する以外には解決の可能性はない

ヒ獨總統急遽歸還
ダンチツヒ除外が注目

【ミユンヘン十六日發同盟】ヒトラー獨總統は十五日來ミユンヘンにおいてリツベントロツプ外相等とルーズベルト大統領の平和要望メツセーヂを議題に取上げて午後九時五十分特別列車でオーストリア經由ベルリンに向けミユンヘンを出發した

【ワルシヤワ十六日發同盟】政界は十五日のルーズベルト大統領の平和要望メツセーヂに對しこれを時宜に適したものとして一般に非常な好感をもつて迎へてゐるが、消息筋ではル大統領のメツセーヂ中にダンチツヒの保障が含まれてゐない點に注目を拂ひダンチツヒ問題に關するドイツ、ポーランド兩國間の交涉は案外早く進展するのではないかとの觀測が有力である

敵の投降兵續出
皇軍の溫情にいづれも感泣
海南島の宣撫工作進捗

【發ロ十六日發同盟】皇軍上陸以來海南の總心なる宣傳工作に依り島内民衆は敵次皇軍の眞意を認めると共に敵兵中にも各方面の第一部隊に歸順するもの續出の有樣である、中にも瓊西に入域せる我第一線部隊に對しては十四日朝敵軍中より元團長以下の將校團が投降し來つたのを始め、其の後も續々投降者が後を絶たず、十五日迄に投降した敵兵は實に二千數百名に達した、尙敵兵の投降者は日增しに增加する狀況にあり、十六

嘉積城を占領

敗敵を猛撃、樂會も奪取

海南島

【海口十六日發同盟】嘉積市に迫った渡邊部隊は十五日午後五時半これを完全に占領した敵は市内に火を放ち雪崩を打つて西方五指山方面に潰走したが我が海軍機の偵察に依れば嘉積市の三分の一は慘憺たる燒野ゲ原と化してゐる、渡邊部隊は息つく間もなく敗敵を追つて猛進撃を續け十六日午前十一時四十分敵の重要據點樂會(嘉積西南方二十粁)を奪取した、尚これと呼應して海軍太田部隊も十六日午前博鰲港、樂海東方十二粁)に敵前上陸、所在の敵を擊破して西進、陸軍部隊と相踵いで樂會を占領した、樂會は樂會縣の縣城で人口二千六百、共産匪の據點として注目される

新英港を占領

【海口十六日發同盟】我が陸海軍の樂會占領に呼應して海南島西部海岸の要は十六日敵の抵抗を受けることなく敵前上陸を完了した、即ち板垣隊長の率ゐる海軍陸戰隊は午後十時半新英港の外港たる洋浦港(江北岸)に上陸し一方陸軍川崎部隊は午後零時二十分内港たる白馬井港(江南岸)に上陸を了し之を占領した、新英港は儋縣の西北部に位し西部諸港中第一の商業港である、尚本島最初の開港場として知られ附近には共産匪が蟠踞して居る

博鰲港に敵前上陸

【博鰲(海南島東海岸清瀾の南西四十五粁)十六日發同盟】我が海軍陸戰隊は十六日午前九時海の荒鷲の協力の下に海南島東海岸中央部の要衝博鰲港に果敢なる敵前上陸を敢行、灼け付く砂濱に軍艦旗を靡かせつつ進擊、同十時敗敵を蹴散らしつつ博鰲を占領した、更に一部は砲擊の掩護下に塹濠とクリークとサボテンの原野を西方に向つて猛進中である

山西南部で殲滅戰

皇軍浮山地區で活躍

【臨汾十六日發同盟】臨汾東方浮山地區に蠢動する敵に對し攻擊の火蓋を切つた井上部隊は十五日早朝行動を開始し百六十六師四千の敵及びその南方地區の敵二百を擊破殲滅して主力は賞庄、柏村、一部は陳庄の敵新編第八師麾下の七百の敵を急追してこれに徹底的打擊を與へ更に轉じて東南地區山地に在る第十師の五百を擊攘多大の戰果を收めた

敵の逆襲を反擊

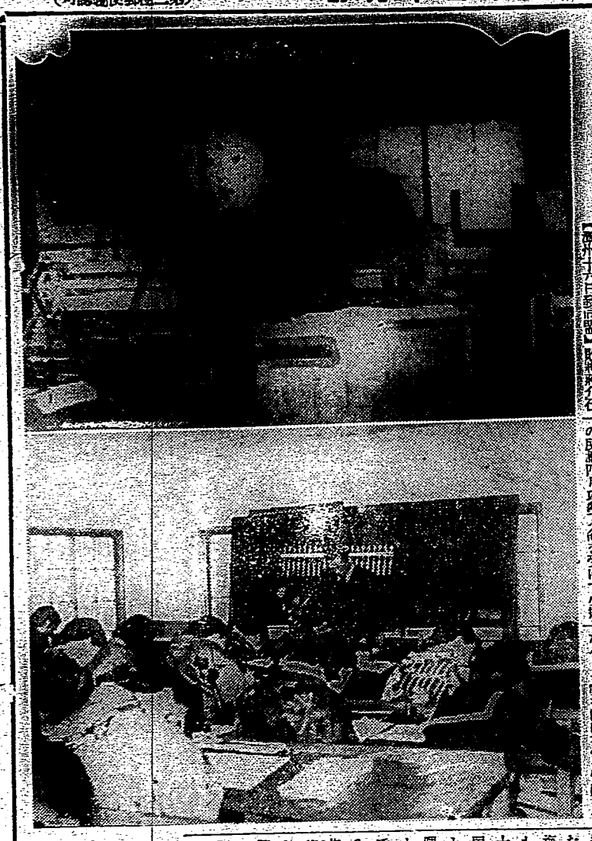
中支南支

【南昌十六日發同盟】十五日未明南昌東南七里の謝危庵附近において敵約六百が逆襲し來つたが津田部隊の痛烈な反擊に遭ひ死體二百及び多數の武器を遺棄して敗走した、又同日夜瓶子口(市汉街東北二里)にも約三百五十の敵が襲擊し來つたが中山部隊に擊退され死體五十を遺棄して遁走した

潭州城を確保

陸、海兩部隊協力して見事デルタ地帶掃蕩

【潭州十六日發同盟】敗將蔣介石一の所謂四月攻勢の命を受けて小癪なグリラ戰を展けてゐる殘敵を撃滅すべく去る七日朝來開始された潭州水道デルタ地帶掃蕩戰は陸海兩軍力、機能な協同の下に開始されたが、十四日海軍陸戰隊八個部隊、陸軍岡本(或)部隊が協力、敵の根據と目される潭州市(廣東南方二十四粁)對岸のデルタに敵前上陸に成功その利を恐れる午後三時ごろ遁んで、部隊上陸を敢行し、各個撃破の態勢に敵は早くも海岸を失つたが、一發も撃たせぬ中に殆ど上陸を終り、一擧に敵前に進擊したが、殘敵のない敵は兵力の上陸と共もに早く全滅、午後四時二十分潭州市街は完全に兩軍の手に收つて確保された、兩軍部隊は十五日朝最後の掃蕩と警備を

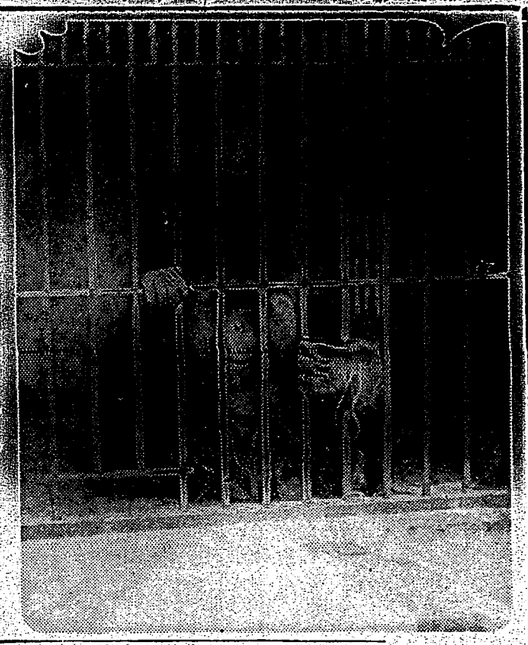


職業補導所を覗く

物資統制に依る轉業者に對する職業補導所が各地に設置されたが、全國産業報國會では之等補導所を通じ國民各階級各職域の第二轉換期に於ける轉業者に對し、積極的に指導斡旋を行ふ事となつた、之が爲め同會では二十億万圓を計上、全國産業報國會介助所には四月二十一日を期し各種産業團體より轉業者の受入れ方を懇請し、轉業者に對する職業紹介

怪我をした時の手當

一寸した出血なら縛らない方がよい
不潔な布を當てるのは禁物



初夏の陽差し

動物園にも初夏が來た

陽差しを浴びて

現れた

南の故郷を思ひつゝ

ふ事は、カルシューム石鹸、マグネシューム石鹸がつくられ、それがタオルの一重になつてゐる纖維に次から次と層になつて硬くなつたものつまり布を硬化して行く事になるわけです、そこで、硬くなつたものは酸でカルシューム石鹸、マグネシューム石鹸をこはしてしまふとよろしいわけです。

×

お洗濯をしてよくすゝいだあと洗面器一ぱいの水に鹽酸を一滴位(食酢ならその倍ほど)よく振り出すと、鹽酸カルシューム、鹽酸マグネシュームになつて水に溶け出してしまいます、尚纖維に云へばそのあとに殘る石鹸の脂肪酸をうすいアンモニアで除くと完全ですが、手數だと思はれたら、酸だけでもよろしいでせう

×

硬くなつたら普通のタオルでも濕上りでも、ネマキでも、以上の方法をとれば、いつも實ひ立てのやうにやわらかな地よいタオルが使へます、ゆめ〳〵タオルは煮に煮ては使ひたくないものです(東京府衛生課所屬檢査員 野口權造)

主婦ノート

○手燒をするときに、鹽酸に鯛の脂肪を溶いて引くと、ずつと美味しくなります、そのためにわざ〳〵鯛の脂肪を買ふ必要もありませんが、鰹肉を買つたとき若し脂肪身が澤山あつたら煮ながして、とつておくと重寶です

○海苔を上手に焙るには、二枚を中表に合せ海苔の一枚とつまんでよくおこつた眞火に熾網で軽く炙せ、その上で、パツ〳〵と手早く海苔を上下に返しながら、どこも平均に焙るまで燒きます。

○汗腺は、たとへ皮膚の外へ出血をしないでも皮下に出血をしてゐる場合まゐのですから、なるべく楽なをつけず、直ちに鹽酸綿の繃帶をして軽く繃帶の上から手當を受けねばなりません

怪我は決して軽く扱はないことで、この位大丈夫と放つておいたりすることがあります

醫師の手當を受ける方がよいのです

腫れ、脹れ、鹽酸などの場合には、すべてその患部を動かさぬ事が何よりも大切でありますから先づ鹽酸綿帶をあてた後は、副木にて綿をあて、折れたり脹れたりしたところが動かぬやう、疲又は吸ひボール紙などの副木をあてゝ軽く繃帶し、手などは三角巾で吊るか、足などの場合は屈さしたまま運ぶやうにして直ちに外科醫の手當を受けねばなりません

怪我は決して軽く扱はないことで、この位大丈夫と放つておいたりすることがあります

タオルの若返り法公開

これだけ心得れば重寶

物資節約の折柄、どんなものでも大切にしなければなりませんが特にこれまでは鹽酸綿にあつたために、有るにまかせて使ひすぎ、少し汚れたり、硬くなつたりすればぽい〳〵捨てゝ新しいのに取りかへたりしてゐたタオルの類も、もうス・フばかりの時代、時たまの純綿タオルなど大切に使ひたいものです

×

それにタオルは御承知の通り普通のさらし手拭ひより肌ざはりも軟かくまことに使ひ心地のよいものですが、しかしこれが、しばらくすると鹽分や鹽素が殘りくなりだし乾いたまま顔などを拭くと痛いやうにさへなつてしまふものです

×

それでタオルで石鹸を使ふといふのは、タテ絲が二重になつてゐるので、一本は普通にかたく、もう一本はゆるゆるに上下に玉になつて出てゐます、つまり絲の表面積から云つたらかなり大きいものです、つまり水溶液でも相當にカルシューム、マグネシュームなどの金屬を持つて居ります、これは石鹸と普通に結びつきやすい

魯西亞船

（2）

土師清二作
坪内節太郎畫

髪

（二）

豚の外を呼びながら行く声がだん〳〵近くなつてきた。

「ええ鯖買ひませう……鯖買ひませう。毛たば買はう……女の髪買はう。女の生き毛買はう。生き毛で悪もえなえ生き毛買はう……」

お幸と小せんは、顔を見合せて獣つてゐる。気味が悪いのだつた。

青葉若葉の季節で、殊かな日の光さん〳〵と映してゐる静かな雰囲気の裏中を、女の髪を買はうと呼び歩く声がする——陰惨な感じの一場面の中にゐるやうな心地であつた。

呼び声は、豚の外を下へ〳〵と遠くなつて行つた。小せんが、

「鯖買ひませうね」

気味が悪るさうに微笑ひをしたすると、お幸が、

「きつと、御用で……買ひ集めてゐるンでせう」

「ああ成程……鯖網の御用にゝ」

「あゝ、さう思ひます。太い縄と鯖網を女の髪で作る……御苦労様山盛が要るでせうから」

「左様でございますね」

そう云ひながら小せんは、自分も髪を切らなければならないのかと思ふと、情無いやうな、変な気持になつた。

「ふゝのね、お師匠さん」

「はい……？」

「お髪を切つて差出すと云つても際山でなくてもいいと思ひます」

「際山で無くても？」

と反問する小せんに、お幸は更さうに云ふのだつた。

「恋だけ……でいゝと思ひます わ。なるべく大勢の女の人の髪の毛を集める。大勢の女の人の髪の毛の力を集めるのが良いらしいンで……お父さん、さう云つてゐましたから。それで、あたしお師匠さんにもおたのみして切つて頂かうと思つたンです」

「ああ、左様で……」

助かつたと云ひたさうに小せんは、生き〳〵と明るく笑つて云つた。

「わたくし……尼さんにされるのかと思ひました」

「あら！」

と、お幸は髪を剃れた坊頭でいとおかしさうに笑つた。

「御師匠さん。さう思ひませんか、お髪を切る、切ると仰有つて……志で片髪をして、お幸の背後に廻つた。

「勿論無う ございますね」

「痛みません、御遠慮なく解いて下さいまし」

「では御免なさいまし」

瑞々しく結びげた島田の元結に鋏を入れた。鋏れる髪を支へて解きほぐし、根の元結を切つた。

前髪、鬢、髪……それ〳〵に解いて梳かれる。

映畫從業員を內務省で訓練

講座、講習會を開いて

防空の如何に重要であるかを識いた譯ではないが強の如何に重要であるかを識いたる譯ではないが強の如何に重要であるかを識いたる譯ではないが強の如何に重要であるかを識いたる

臺灣日日新報 昭和十四年四月十八日（火曜日） 第一萬四千三十九號 A（一）
臺灣日日新報（明治一年五月九日第三種郵便物認可）（昭和十四年四月十八日（火曜日））（一部十錢一ヶ月金四圓參拾錢圓五拾錢）
本日夕刊共十二頁
臺灣日日新報社 所在地 臺北市北門町四丁目三番地 電話代表五八〇番 編輯局五八〇三番 營業局五八〇四番 振替口座臺北一番

臺灣日日新報

社說

本島に少年法の實施が緊切

少年犯罪激增の事實に見よ

我が國に於て少年少女の不良化の防止と保護を目的とする少年法の施行されたのが大正十一年で、本年四月七日は恰も其の第十七回記念日に相當する。爾來に於ては種々なる理由から同法は未だ施行されて居ないが、不良少年少者が逐年增出する事實に鑑み昨年の同日に於て第一回の少年保護デーを設定して講演其の他の行事を爲し、殊に本島唯一の少年刑務所在地たる新竹に於ては刑務所當局主催の下に、國民精神總動員の國旗に風靡して其の趣旨の貫徹方に努力したのであつた。本年は赤文部局及び司法當局の共同主催として其の第二回の行事を營し、古山臺灣法院檢察官長の〝事變下の少年犯罪の傾勢と其の保護〟と題する講演も發表された。

二

由來不良の年少女の出現は多くは其の家庭的事情に因由するものであるが、殊に本島に於ける就生活を見るに彼多不良理由なる家庭風俗が存在し、隨々社會放化に多大なる刺激を與へられるに拘らず年齢に關する明確なる調査を見ないが、大體に於て昭和八年度より十一年度迄の間に於ける少年犯罪者の檢擧人員を見るに、一八・四〇〇人となり、同十二年度には三・四〇〇人と飛躍的增加を示して居る。由來戰時動員實施時は民心動搖が減少するか、一定の時期が經過すればダレと增加するのが定石となつて居る。本島としても亦此の定石通りに行つて居ると言つて了へばそれまでであるが、それにしたところで時來第二の國たるべき少年少女の邪道に陷するものの數が激增しつつある事實は、正に本島に於ける敎化問題の一大汚點を與ふるものでなくて何であらう。即ち一面に於て國家なる惡風俗の浸潤に拍車をかけねばならぬと共に、他面從來の自由の手に依て之を保護し邪道に陷るのを未然に防止するの途を講ずることが極めて緊切であつて、之が爲めには先づ少年法を本島にも施行することが第一義で、これと國民精神總動員の要求する人的資源確保の國家に副ふ所以であらうと信ずる。

三

いま試みに臺法院側に於ける調査を見るに、全島に於て昭和八年度に於ける少年犯罪者數は一萬一千七百九十八人であつたものが、其の後年々增加して昭和十一年度には七百二十八人、更に翌年度の同十二年度には七百七十五人に激增も增加し、更に昨年度には一躍九百十八人となつて戰前より百八十人の大幅的增加を示した。その檢擧數の如きも昭和八年より同十一年迄年平均二五・〇二であつたものが、十二年には一八・四〇〇となり、十三年には實に二二・一〇と增加して居る。この激增傾向は一般犯罪の上にも現はれ其の檢擧數歩合が昭和八年度より十一年度迄は年均二五・一〇%であつたものが同十二年度には一七・九〇%と多大な歩合が指はれるに拘らず檢擧歩合が低減として放免されて居るが、それが社會生活の複雜化と相俟つて、而樣々なる少年の誘惑を與へ時來の國民たるべき彼等を犯罪の淵に追ひ込みつつあるものあり、軍需景氣の副産物組織上の缺陷として一日も早く之を救濟し是正することが望まれて居る。而も事變下に入りて民衆一般が銃後を護る爲めに緊張して事に當り、殊に少年犯罪の如きは大いに愼まなければならぬ時なりと、增して國家非常時局下に於ては一般民心に惡影響を與へるべき犯罪を不問に附すべきでないことは勿論である。

帝國軍艦を派遣し 新南群島權益を確保

官報で臺灣編入公布

【東京十七日發同盟】新南群島は去る二月二十日附を以て新南郡島を臺灣總督府の管下に所屬せしめたが、十八日附官報をもつて此正式に公布することとなつた。新南群島概要左の如し

一、新南群島の所在は概ね北緯十一度乃至十二度、東經百十一度乃至百十七度の間に散在し、其の位置は臺灣南端の東沙島の東南東約四百浬、比律賓羣島の西南西約四百浬、英領北ボルネオ島の北東約四百浬、佛領印度支那カムラン灣の東北東約四百浬の海上に在り、其の中心點は北緯十一度五十分、東經百十一度三十分に在り、其の主なる島嶼の名は左の如くである

北二子島、南二子島、西青島、三角島、中子島、燕島（俗稱不明）島、南威島、長島、北子島

二、而して同群島は從來一般には無主の地として認められてゐたが本邦人は大正年間以來同群島を統治するの相當多く、特に大正七年以來ラサ燐鑛業會社は同群島のグアノ及び燐鑛採取其他の資源開發の目的を以て二回に亘り同群島の詳細なる現地調査を行ひ、大正十年より長島で、同十二年より南二子島で巨額の資本を投じ永久的諸施設を設けて島の開發に從事したが、偶々昭和四年經濟恐慌のため同會社は事業縮少の已むなきを見、遂に一時內地に引揚げた。其後燐鑛の開採與業會社が長島で再び諸施設を設けて漁業及びグアノ採掘に從事し今日に至つた。ラサ燐鑛會社は大正十二年から昭和四年までに送したグアノ總數は約二萬五千九百噸に及んでゐる

三、本群島を繞つて日佛間に紛爭が生じたのは昭和八年以來のことで、當時邦人關係者が一時群島を引き揚げたに過ぎず、其の後も引續き同群島の領有權を有してゐるものと認められ、佛國政府も亦同群島を佛領印度支那カムラン灣の屬島として取扱ひ來つたものである

四、現在同群島には邦人關係者として左の者が居住してゐる

長島　燐鑛採取業者　十名
南二子島　燐鑛採取業者　十名
南威島　燐鑛採取業者　十名

【名古屋十七日發同盟】西下中の板垣陸相は十七日午前九時大阪驛發特急列車で名古屋驛着、車中左の如く時局問題につき談話發表後直ちに宿舍に入つた

獨伊の新秩序建設 敬服に堪へない

板垣陸相の時局談

【名古屋十七日發同盟】西下中の板垣陸相は十七日午前九時大阪驛發特急列車で名古屋驛着、車中左の如く時局問題につき談話發表後直ちに宿舍に入つた

歐洲情勢

歐洲の情勢は複雜で險惡な狀況にあるが、これは小國が蹶起して極めて不健全なる大勢に誤かれ諸國家の覺りの不均衡を來した結果であらう、故に獨伊兩國が新秩序建設を目的として大いに努力してゐることは當然に違へない

重慶政府の內情

所が仕は飽迄も支那事變の處理を眞摯に解決せんとして四月攻勢を實施してゐるが支那事變の處理は時に對する軍事だけのために解決はないやうである、支那事變目的が此以上攻勢に出でも却つて敵國的に深入をしめられることをよく知つてゐるのだ、しかし何處迄も抗戰の態度を堅持してゐるの結果であらう、故に獨伊兩國が新秩序建設を目的として大いに努力してゐることは當然に違へない

支那中央政權問題

支那中央政權の確立は、二ヶ月乃至三ヶ月の間に成功するであらう、今後の支那の指導は占領地內の治安、經濟、交通機關の整備を急ぐと同時に新政權の育成強化に努力すると共に、支那奥地に殘存する抗日勢力の一掃に努力する

占據地域の治安

占據地域の治安は日增に良好となつてゐる、治安の回復は民心の安定を齎し、民心の安定は治安の確保を齎すもので、兩者は相俟つて時局の收拾に貢獻するものである

日滿支の連絡機關

日滿支の生產力擴充、物資調節計畫などから云つて經濟機關を設置することは必要であり、經濟機關の設置は單に經濟上の問題ではなく、政治的にも重要な意義を有するものである、從つて日滿支の經濟機關の設置は政治的考慮を拂つて實施する必要がある

歐洲大戰の時局

歐洲大戰の時局は、獨伊兩國が英佛の挑戰に對して頑有自言の敵國方を申入れたのであるが佛國政府は右勸告に應じなかつたので、帝國政府は獨逸佛蘭西との關係を考へるに帝國が佛蘭西との關係に對して有する年月に及ぶ重要關係並に現實に於ける重要關係等を參酌して此際佛國政府の勸告に應じなかつたことは當然の措置であると認める

第三國との關係

獨伊兩國が第三國に對して如何なる態度に出でんとするかは對獨關係の重大なる問題であるが、未だ第三國の對獨援助の具體的事實が發生されるので第一線部隊の歸還問題は考へて居ない、山本入閣實現の見透しは如何

英米大使會談問題

自分としてはクレーギー、カー兩大使會見問題など興味も關心も持つてゐない

首相の指導權強化と企畫院擴大問題

時局に鑑み總動員法の發動が考慮されようがこれに關する行政機構の統一のため總理大臣の指導權を確立することが必要で、このことは別に憲法なしに爲されずに出來ることと思ふ、企畫院の強化擴充は內閣でもその必要を認め目下これが方策に關し調査研究中である

日滿支の連絡機關

日滿支の生產力擴充、物資調節計畫などから云つて經濟機關を設置することは必要であり、經濟機關の設置は單に經濟上の問題ではなく、政治的にも重要な意義を有するものである從つて日滿支の經濟機關の設置は政治的考慮を拂つて實施する必要がある

歐洲大戰の時局

歐洲大戰の時局は、獨伊兩國が英佛の挑戰に對して頑有自言の敵國方を申入れたのであるが佛國政府は右勸告に應じなかつたので、帝國政府は獨逸佛蘭西との關係を考へるに帝國が佛蘭西との關係に對して有する年月に及ぶ重要關係並に現實に於ける重要關係等を參酌して此際佛國政府の勸告に應じなかつたことは當然の措置であると認める

第三國との關係

獨伊兩國が第三國に對して如何なる態度に出でんとするかは對獨關係の重大なる問題であるが、未だ第三國の對獨援助の具體的事實が發生されるので第一線部隊の歸還問題は考へて居ない、山本入閣實現の見透しは如何

英米大使會談問題

自分としてはクレーギー、カー兩大使會見問題など興味も關心も持つてゐない

首相の指導權強化と企畫院擴大問題

時局に鑑み總動員法の發動が考慮されようがこれに關する行政機構の統一のため總理大臣の指導權を確立することが必要で、このことは別に憲法なしに爲されずに出來ることと思ふ、企畫院の強化擴充は內閣でもその必要を認め目下これが方策に關し調査研究中である

兩英大使會談問題

自分としてはクレーギー、カー兩大使會見問題など興味も關心も持つてゐない

首相の指導權強化と企畫院擴大問題

時局に鑑み總動員法の發動が考慮されようがこれに關する行政機構の統一のため總理大臣の指導權を確立することが必要で、このことは別に憲法なしに爲されずに出來ることと思ふ、企畫院の強化擴充は內閣でもその必要を認め目下これが方策に關し調査研究中である

歐洲情勢

歐洲の情勢は複雜で險惡な狀況にあるが、これは小國が蹶起して極めて不健全なる大勢に誤かれ諸國家の覺りの不均衡を來した結果であらう、故に獨伊兩國が新秩序建設を目的として大いに努力してゐることは當然に違へない

重慶政府の內情

所が仕は飽迄も支那事變の處理を眞摯に解決せんとして四月攻勢を實施してゐるが支那事變の處理は時に對する軍事だけのために解決はないやうである、支那事變目的が此以上攻勢に出でも却つて敵國的に深入をしめられることをよく知つてゐるのだ、しかし何處迄も抗戰の態度を堅持してゐるの結果であらう、故に獨伊兩國が新秩序建設を目的として大いに努力してゐることは當然に違へない

支那中央政權問題

支那中央政權の確立は、二ヶ月乃至三ヶ月の間に成功するであらう、今後の支那の指導は占領地內の治安、經濟、交通機關の整備を急ぐと同時に新政權の育成強化に努力すると共に、支那奥地に殘存する抗日勢力の一掃に努力する

占據地域の治安

占據地域の治安は日增に良好となつてゐる、治安の回復は民心の安定を齎し、民心の安定は治安の確保を齎すもので、兩者は相俟つて時局の收拾に貢獻するものである

日滿支の連絡機關

日滿支の生產力擴充、物資調節計畫などから云つて經濟機關を設置することは必要であり、經濟機關の設置は單に經濟上の問題ではなく、政治的にも重要な意義を有するものである從つて日滿支の經濟機關の設置は政治的考慮を拂つて實施する必要がある

歐洲大戰の時局

歐洲大戰の時局は、獨伊兩國が英佛の挑戰に對して頑有自言の敵國方を申入れたのであるが佛國政府は右勸告に應じなかつたので、帝國政府は獨逸佛蘭西との關係を考へるに帝國が佛蘭西との關係に對して有する年月に及ぶ重要關係並に現實に於ける重要關係等を參酌して此際佛國政府の勸告に應じなかつたことは當然の措置であると認める

第三國との關係

獨伊兩國が第三國に對して如何なる態度に出でんとするかは對獨關係の重大なる問題であるが、未だ第三國の對獨援助の具體的事實が發生されるので第一線部隊の歸還問題は考へて居ない、山本入閣實現の見透しは如何

英米大使會談問題

自分としてはクレーギー、カー兩大使會見問題など興味も關心も持つてゐない

首相の指導權強化と企畫院擴大問題

時局に鑑み總動員法の發動が考慮されようがこれに關する行政機構の統一のため總理大臣の指導權を確立することが必要で、このことは別に憲法なしに爲されずに出來ることと思ふ、企畫院の強化擴充は內閣でもその必要を認め目下これが方策に關し調査研究中である

帝國軍艦を派遣し 新南群島權益を確保

官報で臺灣編入公布

撫河に敵前上陸

群がる敵を遂に潰滅

【南昌十七日發同盟】十七日午前零時、南進、德河、中條山の各戰線總攻撃の中を物ともせず敵の如く敵陣の背後に進出、南昌東南七里の撫河に敵前上陸、群がる敵を遂に潰滅した

ジブラルタル要塞 俄に緊張氣分が橫溢

防備軍を增強して 御裁可を經て發令

【ロンドン十七日發同盟】イタリー軍のスペイン領モロッコ集結と共に獨逸のジブラルタル要塞增强の氣分が橫溢してゐるが、十六日ロンドンに達した情報に依ればジブラルタル防衛最高當局の方針を決したスエルズ運河軍一旅團が近くジブラルタルへ增援される筈である

【ロンドン十七日發同盟】イタリー軍のスペイン領モロッコ集結と共に獨逸のジブラルタル要塞增强の氣分が橫溢してゐるが、十六日ロンドンに達した情報に依ればジブラルタル防衛最高當局の方針を決したスエルズ運河軍一旅團が近くジブラルタルへ增援される筈である

地方長官大異動

御裁可を經て發令

【東京十七日發同盟】地方長官大異動は閣議の決定を經て十七日午後四時三十分發表された

內務關係（警視總監以外の分）

地方局行政課長　木村　清司
任福井縣知事　安藤　陸
愛知縣總務部長　森部　隆
任島根縣知事　山形縣知事　藏元　晴朗
任山口縣知事　頴原　退藏
任岡山縣知事　岡部長之助
任大分縣知事　加藤恭平
內務省警保局保安課長　鈴木　敬一
宮崎縣知事　岡崎哲二郎
兵庫縣知事　今村　荒男
宮城縣知事　石山　賢吉
島根縣知事　三國　一朗
熊本縣知事　藤岡　長和
鹿兒島縣知事　鍛冶　久一

依願免本官（文部關係）

學生課長、學生課長、體育課長、學生課長

部長級異動

廿一日前後に發令

【東京十七日發同盟】內務當局では大體左の樣な部長級の異動に伴ふ地方長官の異動に關し目下本省新次官の下に慎重考慮中であるが、大體五月中旬頃迄には發表の運びとなるが大體二十日前後に發令の筈である、本省側では此の異動に當つて大體左の樣な方針を以て臨む模樣である

一、從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

二、從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

三、從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

四、其の他、本省の內部人事の刷新に關しても從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

部長級異動

廿一日前後に發令

【東京十七日發同盟】內務當局では大體左の樣な部長級の異動に伴ふ地方長官の異動に關し目下本省新次官の下に慎重考慮中であるが、大體五月中旬頃迄には發表の運びとなるが大體二十日前後に發令の筈である、本省側では此の異動に當つて大體左の樣な方針を以て臨む模樣である

一、從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

二、從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

三、從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

四、其の他、本省の內部人事の刷新に關しても從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

拓務省、外地の異動を斷行か

田中新次官が攻究中

【東京十七日發同盟】小磯拓相は拓務當局の異動に伴ふ部長級の異動に關し目下本省新次官の下に慎重考慮中であるが、大體五月中旬頃迄には發表の運びとなるが大體二十日前後に發令の筈である、本省側では此の異動に當つて大體左の樣な方針を以て臨む模樣である

一、從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

二、從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

三、從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

四、其の他、本省の內部人事の刷新に關しても從來の慣例に囚はれず、新時局に適應する人事を斷行すること

督府異動十八日に發令

十餘名

全島地方長官會議

廿四日から四日間開催

【無天】某外交通曰く、今度のルーズベルト大統領のメッセージは、イギリス側と緊密な打合せをした上のことと思はれるが、其の裏面に於ては地中海の制海權を握つてゐる英國の態度に對しては、地中海の艦隊總司令たるものの如きは、イタリーの背後の為め極度に脅威を感じて來てゐる上に、其の上の入口のジブラルタルはスペインの防共陣に加盟の結果すつかり反英國の氣分に包圍された形となり、事の次第に依つてはフランコ軍が積極的に同盟軍の為めに出ないと限らぬ態勢すら見えぬではない▲イギリスとしては依然ムッソリニ首相、イーデン、イタリー某外相等が會合して居る、二人の間に何等の話合ひもなく、又何等の申合せもしてゐないと言ふ樣な事は考へられないが、兎に角ムッソリニ首相は、イーデン

信聯の貯金吸收高
事變後二億五千萬圓
十三年末殘高實に五億六千萬圓
證券保有も二億五千

臺灣組合中央金庫では、全國四十七の出張所信用事業組合(十三年末現在)を發足したが、いま右により信用事業を擧出して見ると、実に六億二千五百五十九万二千円(一聯合會當二千二百五十二万三千円)に上り、この八八・二六%は貯金となつて構成してゐる、如何に戰時下の貯金吸收が活潑であるかを知るべきである、聯合會を除く組合高は五億六千百六十二万五千円、

[illegible]ケ入は四・二%方増し、普通預金は二%方減じた、次に有價證券投資は、総額一億五千四百九十二万円(一聯合會當五百四十二万円)で、前年同期より九千八百二十万円(六・二%)を減少してゐる、この證券内容を示すと

種別	聯合會	組合	合計	前年同期	増減
國債	三、四九三千円	一、九三五千円	五、四二八千円	五、三四八千円	八〇千円
地方債	四、〇八二	三、三一二	七、三九四	七、三九四	一、〇〇二
社債	三、〇八三	三、〇八三	六、一四六	五、一四六	一、〇〇〇
その他	三、一四二	八三六	三、九七八	三、九七八	一、八〇〇
計	一四、三二二	九、一七〇	二三、四九二	二一、四九二	二、〇〇〇

右の如く社債保有が總額の五九・三%を占め、次いで地方債(國債)、三%を占めてゐるが、これを事務別と對比して見ると、聯合會は國債、組合は社債を中心として投資してゐる

最近の歴史を有し現在總資産二億九千餘万円、契約高八億三千万円加入者二百十餘万人保險金支拂高二千五百七十餘万円、現在の保險契約の外、兒童保險では徴兵保險の外、兒童保險が四万五千円と出來高では五大保險に追隨する成績を示してゐる

第九回事變國債
臺灣割當は百萬圓
廿五日から全國で賣出し

年一月臺北市内に臺灣支部を設置してから二年目になるが、去る十四日東京本部から臺灣取締役栗山壽二氏來臺の機會に十五日午前十時より臺北市役會に於て第一回社員總會を開催、全員參加の代表社員、監事等六十名出席、栗山壽治氏の挨拶に次で議事に入り午後一時散會、引續き午後二時より同會議室に於て同會社に參與一同懇談會を催した、因に同社は明治三十二年の創立に係り總民保險會社中

滿鐵北支事務局
十七日閉鎖
【北京十七日發同盟】華北交通株式會社創立の前驅として滿鐵が從來北支經濟調査の爲に設置してゐた北支事務局では十七日新京に發會式を擧げ、同時に北支事務局は閉鎖、同局の業務は華北交通の整備擴充に努めて來た

臺灣製糖埔里社工場は去十五日午後十一時五十分を以て今期の製糖作業を終了した、原料甘蔗買入高九千五百十二噸から十四、五噸を留め第一回搾糖の一割二分五厘迄に搾つた糖液は一割二分五厘迄に搾つた糖液は一割二分五厘迄に搾つた糖液は

南方文化大躍進號

臺灣書籍株式會社創立一週年記念

普通文官試驗

小學校中學校卒業生來れ 獨學で一年で官任判

小學校卒業生も中等學校卒業生も本會に來れ。一年以内の獨學で普通試驗に合格、颯爽と官界へ登場出來る。從來の合格者は殆んど本職、どしどし官任官、臺灣内地滿鮮支那等の官廳に感激裡勤務中。來れ

臺灣普通文官試驗へ 本講義で春の一戰

臺灣總督府に於ては毎年四月、臺北、臺中、臺南の三個所に於て普通試驗を施行其の都度本會會員は素晴しい成績で合格しつゝある。諸君にして今直ぐ本會に入會せば來春の同試驗に必ず合格、其の方名がラヂオで放送さるゝの感激に浸り得る。前年度合格會員は臺中州知事官房を始め全部奉職せり。來れ！

新會員大募集 高文にも合格

年々高文合格者をも出す本會は前年も三名の會友が高文司法科試驗に合格した。

本年度臺灣普通文官試驗

本年度臺灣普通文官試驗は四月七日より十二日迄なるが、此の受驗者は來る月末迄に願書を提出せざるべからず。詳細は別項廣告を參照されたし。尚昨年度同試驗必勝の準備を爲すことが出來ます。

講義内容見本 二點 進呈

此の廣告見本請求者には、内容見本を贈呈す

文官受驗界

東京市麻布區笄町二十五番地 日本通信大學法制學會

優良講義錄推奨

書道

添削本位通信教授

東京書道院總務 中村春堂先生 責任御指導

中村春堂先生肖像

人の上に立ちたい諸君「苦語」だけは身につけよ

中學校卒業程度から獨學で立派に出來る

何職業にも英語は必要 英語を知る利益は無限

而も仕事の餘暇に樂々習得出來るとしたら學ばないのが嘘です。世に有名な井上十吾先生御執筆のレコード付き「井上英語講義錄」に依れば、小學卒業程度から自宅で完全に、立身の武器「英語」が身に附きます。

英語講義見本無料進呈

東京市麴町區富士見町三丁目四九番地 井上通信英語學校

日本ペン習字

會費月一圓・六ヶ月本業・目下特典有

いよいよペン字の時代です。これからはペン字の上手下手がおの〳〵その人の出世を左右します。上達法を御覽下さい。

入會規則書

東京市麴町區富士見町三丁目四九番地 日本ペン習字研究會

働きながら學べる 獨學中學生募集 新學年 春季

學問は學校でなければ出來ないと考へる方は大間違ひだ。人は働きながら勉學してこそ本當に修養されるのだ。實業教育の時代は既に過ぎた。大會社、大銀行の中堅人物が、實際出身の人に多いのをご存じか。どんな田舎の學校にも、中學校以上に完備した國民中學講義錄について學べば最初一ヶ年の間に完全に中學の全科目が卒業できる。何をおいてもハガキですぐ見本を請求して、慶應の眞一郎と肩を並べ給へ。

國民中學講義錄見本進呈

東京麴町區富士見町三丁目四九番地 國民中學教育會

一ヶ年卒業 月壹圓 十二大附錄

北原式 内容見本請求者には

講義内容見本 二點 進呈

文官受驗界

此の廣告見本請求者には、内容見本を贈呈す

「女官採用試驗」という最新資料を一部づゝ贈呈致します。

東京市澁谷區明治神宮表參道（電話青山五四番）

日本通信大學法制學會

英語會話無料進呈

日本ペン習字研究會

支那語

講座見本無料進呈

東京麴町區富士見町二丁目八番地 北京語普及學會

新代議士 青柳篤恒先生

大陸へ進め！

鐵道員大募集 初めて受驗し 小學の學力で受驗出來る 高等官造出世

本校にて「鐵道員受驗講義」を發行し、現職の儘で資格を得給へ。

東亞高等鐵道學校

見本進呈

文庫改造

改造社

東京市芝區新橋七丁目十二 振替東京 八四〇二

定價（送料）	冊數	配本順序
二	一〇	1
二	一〇	2
二	一〇	3
二	一〇	4
二	一〇	5
二	一〇	6
二	一〇	7
二	一〇	8
二	一〇	9
二	一〇	10

人類文化史物語（上）（下） 新居格著
民族移動史 小川一真著
中産階級史 ルイス・戴爾著
伊太利物語 ゴオリキイ著
作家論 中野重治著
ドイツ史 ブランデンブルク著
ドイツ社會民主黨史（四） ブランデンブルク著
財政概論 ヒルファディング著
マルクス經濟學入門 ヒルファディング著
奈落の人々 ゴオリキイ著
社會詩集 生田春月著
寡婦マルタ ゴオリキイ著
闇の力 生ける屍 トルストイ著
ドストエフスキー論 ジイド著
婚姻と離婚 高山一彌著
何をなすべきか（上） レーニン著
人生 トルストイ著
ロビンソン物語 トルストイ著
社會詩集 生田春月著
作者別萬葉全集 土岐善麿編
作者別萬葉以後 土岐善麿編
自傳 片山潛著
日本 橫瀨夏雨著
父と子 ツルゲネフ著
魔 レオニード・アンドレーエフ著
私の大學 番人 ゴーリキイ著
チエーホフ傑作集 チエーホフ著
野性の呼聲 ロンドン著
ジュロフェーン家の人々 ゴーリキイ著
野獸人造・戀と決鬪 ゴーリキイ著
八月の十五夜 ゴーリキイ著
現代思潮の最高峰に聳ゆ 本村利夫著
親切な大家の指導で手習を始めませう!! 中村春堂先生彩影
如何なる惡癖も矯正 中村春堂先生
東京書道學院 日本書道學院
東京麴町區富士見町二丁目四番地 見本進呈
（振込九段八三一）（電話九段八三一）

法王鑒の拔穴 ジイド著
一茶七番日記（上）（下） 荻原井泉水校訂
唐人お吉（上）（中）（下） 岸田國士著
愛すればこそ 谷崎潤一郎著
愛なき人々 谷崎潤一郎著
痴人の愛 谷崎潤一郎著
屋上の土 古泉千樫著
或る女（上）（下） 有島武郎著
星座に生出る惱み 有島武郎著
井泉水句集 荻原井泉水著
有島武郎戯曲集 有島武郎著
千家元麿詩集 千家元麿著
有島武郎日記集 有島武郎著
横瀨夜雨詩集 橫瀨夜雨著
修禪寺物語 岡本綺堂著
少年の悲哀 岡本綺堂著
運命論者 岡本綺堂著
愛 谷崎潤一郎著
作者別萬葉全集 土岐善麿編
作者別萬葉以後 土岐善麿編
自傳 片山潛著
日本 橫瀨夏雨著
父と子 ツルゲネフ著
魔 レオニード・アンドレーエフ著
私の大學 番人 ゴーリキイ著
チエーホフ傑作集 チエーホフ著
野性の呼聲 ロンドン著
ジュロフェーン家の人々 ゴーリキイ著
野獸人造・戀と決鬪 ゴーリキイ著
八月の十五夜 ゴーリキイ著
現代思潮の最高峰に聳ゆ 本村利夫著
親切な大家の指導で手習を始めませう!! 中村春堂先生彩影
如何なる惡癖も矯正 中村春堂先生
東京書道學院 日本書道學院
東京麴町區富士見町二丁目四番地 見本進呈
（振込九段八三一）（電話九段八三一）

泰西美術の知識 中村古峽著
東洋美術の知識 中村古峽著
蕪村七部集 潁原退藏著
俳諧七部集 宇田久校註
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著
日本美術の知識（下） 中村古峽著
白き手の人々 吉屋信子著
雨月物語（上） 青柳有美著
俳諧七部集 宇田久校註
十字街頭を往く 原田實著
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著
日本美術の知識（下） 中村古峽著
白き手の人々 吉屋信子著
雨月物語（上） 青柳有美著
俳諧七部集 宇田久校註
十字街頭を往く 原田實著
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著
日本美術の知識（下） 中村古峽著
白き手の人々 吉屋信子著
雨月物語（上） 青柳有美著
俳諧七部集 宇田久校註
十字街頭を往く 原田實著
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著

我等の對立 ブハーリン著
社會學ファシズム論 ラヴェンスキー著
日本開化小史（上）（中）（下） 田口卯吉著
日本經濟論 田口卯吉著
日本商業史 横井時冬著
日本工業史 横井時冬著
經濟學の實際知識 高橋龜吉著
リヤルト論文集 リヤルト著
女工哀史 細井和喜藏著
幸德秋水集 幸德秋水著
中江兆民集 中江兆民著
日本社會史 本庄榮治郎著
近世封建社會の研究 本庄榮治郎著
我國近世の農村問題 本庄榮治郎著
マルクス主義經濟學 河上肇著
哲學概說 桑木嚴翼著
現代哲學思潮 桑木嚴翼著
カントの平和論 桑木嚴翼著
プロレタリア文學論 藏原惟人著
第一インターナショナル史（第一部） 內田弘著
第一インターナショナル史（第二部） 內田弘著
ソヴエト農業政策 田中萬太郎著
ロシアのレーニン主義の基礎 スターリン著
レーニン主義の基礎 スターリン著
マルクス經濟學大綱（上）（中）（下） ボルヒ著
マルクス經濟學大綱（九一） 田中菊次著
キップスートの本質 安田一晃著
唯物論史入門 ブレ（ソ）著
社會學入門 ブハーリン著

勞働價値說の擁護 ボルトケヴィッチ著
經濟地理概論 森戸辰男著
帝國主義論 ヒルファディング著
ブレンタノ經濟學 ブレンタノ著
心理學概論 小口偉一著
社會意識學概論 ボグダーノフ著
經濟科學概論 林癸未夫著
英國勞働運動史 ブレンターノ著
勞働組合論 レーニン著
マルキシズム方法論 アドラー著
倫理と唯物史觀 カール・カウツキー著
原始財産 ラファルグ著
社會主義への道 大橋隆憲著
社會ファシズム論 ラヴェンスキー著
日本經濟論 田口卯吉著
日本商業史 横井時冬著
日本工業史 横井時冬著
經濟學の實際知識 高橋龜吉著
リヤルト論文集 リヤルト著
女工哀史 細井和喜藏著
幸德秋水集 幸德秋水著
中江兆民集 中江兆民著
日本社會史 本庄榮治郎著
近世封建社會の研究 本庄榮治郎著
我國近世の農村問題 本庄榮治郎著
マルクス主義經濟學 河上肇著
哲學概說 桑木嚴翼著
現代哲學思潮 桑木嚴翼著
カントの平和論 桑木嚴翼著
プロレタリア文學論 藏原惟人著
第一インターナショナル史（第一部） 內田弘著
第一インターナショナル史（第二部） 內田弘著
ソヴエト農業政策 田中萬太郎著
ロシアのレーニン主義の基礎 スターリン著
レーニン主義の基礎 スターリン著
マルクス經濟學大綱（上）（中）（下） ボルヒ著
マルクス經濟學大綱（九一） 田中菊次著
キップスートの本質 安田一晃著
唯物論史入門 ブレ（ソ）著
社會學入門 ブハーリン著

勞働者の居ない船 鶴見祐輔著
日記 國木田獨歩著
海に生くる人々 葉山嘉樹著
はやり唄 小杉天外著
朝の螢 葛西善藏著
十年 島木赤彦著
川のほとり 古泉千樫著
松の芽 中村憲吉著
枕 島木赤彦著
それから 夏目漱石著
草 枕 夏目漱石著
坊つちやん 夏目漱石著
新華摘・蕪村翁集 萩原井泉水校訂
萬葉漫筆 佐佐木信綱著
大和物語 水野馨一校訂
ニーチェ傳（上）（中）（下） 阿部次郎著
スピノザ傳 ヘルト著
可愛い女 チェーホフ著
法律哲學綱要（上）（下） ラートブルフ著
ミルゴロド 平井肇譯
斷鴻零雁記 藪田義雄著
サランボオ（上）（下） フローベル著
不用人の一生 ゴーリキイ著
紅 玉 ツベルス著
誘惑者の日記 キルケゴール著
平賀元義歌集 橫山茂雄・宇田甫校訂
岡倉天心傳 清見陸郎著
現代男 阿部知二著
美しき青春 橫村忠夫著
風ゝ物 帖 佐藤春夫著
ロシヤ文學講話 伊藤整著
巴里の胃袋（上）（下） ゾラ著
ライン夜歌譜 浦上三郎著
性と性格（上）（下） ワイニンガー著

芭蕉遺語集 萩原井泉水校訂
一茶七番日記（下） 荻原井泉水訂
唐人お吉（上）（中）（下） 岸田國士著
愛なき人々 谷崎潤一郎著
痴人の愛 谷崎潤一郎著
屋上の土 古泉千樫著
或る女（上）（下） 有島武郎著
星座に生出る惱み 有島武郎著
井泉水句集 荻原井泉水著
有島武郎戯曲集 有島武郎著
千家元麿詩集 千家元麿著
有島武郎日記集 有島武郎著
横瀨夜雨詩集 橫瀨夜雨著
修禪寺物語 岡本綺堂著
少年の悲哀 岡本綺堂著
運命論者 岡本綺堂著
愛 谷崎潤一郎著
作者別萬葉全集 土岐善麿編
作者別萬葉以後 土岐善麿編
自傳 片山潛著
日本 橫瀨夏雨著
父と子 ツルゲネフ著
魔 レオニード・アンドレーエフ著
私の大學 番人 ゴーリキイ著
チエーホフ傑作集 チエーホフ著
野性の呼聲 ロンドン著
ジュロフェーン家の人々 ゴーリキイ著
野獸人造・戀と決鬪 ゴーリキイ著
八月の十五夜 ゴーリキイ著
現代思潮の最高峰に聳ゆ 本村利夫著
親切な大家の指導で手習を始めませう!! 中村春堂先生彩影
如何なる惡癖も矯正 中村春堂先生
東京書道學院 日本書道學院
東京麴町區富士見町二丁目四番地 見本進呈
（振込九段八三一）（電話九段八三一）

泰西美術の知識 中村古峽著
東洋美術の知識 中村古峽著
蕪村七部集 潁原退藏著
俳諧七部集 宇田久校註
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著
日本美術の知識（下） 中村古峽著
白き手の人々 吉屋信子著
雨月物語（上） 青柳有美著
俳諧七部集 宇田久校註
十字街頭を往く 原田實著
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著
日本美術の知識（下） 中村古峽著
白き手の人々 吉屋信子著
雨月物語（上） 青柳有美著
俳諧七部集 宇田久校註
十字街頭を往く 原田實著
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著

我等の對立 ブハーリン著
社會學ファシズム論 ラヴェンスキー著
日本開化小史（上）（中）（下） 田口卯吉著
日本經濟論 田口卯吉著
日本商業史 横井時冬著
日本工業史 横井時冬著
經濟學の實際知識 高橋龜吉著
リヤルト論文集 リヤルト著
女工哀史 細井和喜藏著
幸德秋水集 幸德秋水著
中江兆民集 中江兆民著
日本社會史 本庄榮治郎著
近世封建社會の研究 本庄榮治郎著
我國近世の農村問題 本庄榮治郎著
マルクス主義經濟學 河上肇著
哲學概說 桑木嚴翼著
現代哲學思潮 桑木嚴翼著
カントの平和論 桑木嚴翼著
プロレタリア文學論 藏原惟人著
第一インターナショナル史（第一部） 內田弘著
第一インターナショナル史（第二部） 內田弘著
ソヴエト農業政策 田中萬太郎著
ロシアのレーニン主義の基礎 スターリン著
レーニン主義の基礎 スターリン著
マルクス經濟學大綱（上）（中）（下） ボルヒ著
マルクス經濟學大綱（九一） 田中菊次著
キップスートの本質 安田一晃著
唯物論史入門 ブレ（ソ）著
社會學入門 ブハーリン著

勞働價値說の擁護 ボルトケヴィッチ著
經濟地理概論 森戸辰男著
帝國主義論 ヒルファディング著
ブレンタノ經濟學 ブレンタノ著
心理學概論 小口偉一著
社會意識學概論 ボグダーノフ著
經濟科學概論 林癸未夫著
英國勞働運動史 ブレンターノ著
勞働組合論 レーニン著
マルキシズム方法論 アドラー著
倫理と唯物史觀 カール・カウツキー著
原始財産 ラファルグ著
社會主義への道 大橋隆憲著
社會ファシズム論 ラヴェンスキー著
日本經濟論 田口卯吉著
日本商業史 横井時冬著
日本工業史 横井時冬著
經濟學の實際知識 高橋龜吉著
リヤルト論文集 リヤルト著
女工哀史 細井和喜藏著
幸德秋水集 幸德秋水著
中江兆民集 中江兆民著
日本社會史 本庄榮治郎著
近世封建社會の研究 本庄榮治郎著
我國近世の農村問題 本庄榮治郎著
マルクス主義經濟學 河上肇著
哲學概說 桑木嚴翼著
現代哲學思潮 桑木嚴翼著
カントの平和論 桑木嚴翼著
プロレタリア文學論 藏原惟人著
第一インターナショナル史（第一部） 內田弘著
第一インターナショナル史（第二部） 內田弘著
ソヴエト農業政策 田中萬太郎著
ロシアのレーニン主義の基礎 スターリン著
レーニン主義の基礎 スターリン著
マルクス經濟學大綱（上）（中）（下） ボルヒ著
マルクス經濟學大綱（九一） 田中菊次著
キップスートの本質 安田一晃著
唯物論史入門 ブレ（ソ）著
社會學入門 ブハーリン著

勞働者の居ない船 鶴見祐輔著
日記 國木田獨歩著
海に生くる人々 葉山嘉樹著
はやり唄 小杉天外著
朝の螢 葛西善藏著
十年 島木赤彦著
川のほとり 古泉千樫著
松の芽 中村憲吉著
枕 島木赤彦著
それから 夏目漱石著
草 枕 夏目漱石著
坊つちやん 夏目漱石著
新華摘・蕪村翁集 萩原井泉水校訂
萬葉漫筆 佐佐木信綱著
大和物語 水野馨一校訂
ニーチェ傳（上）（中）（下） 阿部次郎著
スピノザ傳 ヘルト著
可愛い女 チェーホフ著
法律哲學綱要（上）（下） ラートブルフ著
ミルゴロド 平井肇譯
斷鴻零雁記 藪田義雄著
サランボオ（上）（下） フローベル著
不用人の一生 ゴーリキイ著
紅 玉 ツベルス著
誘惑者の日記 キルケゴール著
平賀元義歌集 橫山茂雄・宇田甫校訂
岡倉天心傳 清見陸郎著
現代男 阿部知二著
美しき青春 橫村忠夫著
風ゝ物 帖 佐藤春夫著
ロシヤ文學講話 伊藤整著
巴里の胃袋（上）（下） ゾラ著
ライン夜歌譜 浦上三郎著
性と性格（上）（下） ワイニンガー著

芭蕉遺語集 萩原井泉水校訂
一茶七番日記（下） 荻原井泉水訂
唐人お吉（上）（中）（下） 岸田國士著
愛なき人々 谷崎潤一郎著
痴人の愛 谷崎潤一郎著
屋上の土 古泉千樫著
或る女（上）（下） 有島武郎著
星座に生出る惱み 有島武郎著
井泉水句集 荻原井泉水著
有島武郎戯曲集 有島武郎著
千家元麿詩集 千家元麿著
有島武郎日記集 有島武郎著
横瀨夜雨詩集 橫瀨夜雨著
修禪寺物語 岡本綺堂著
少年の悲哀 岡本綺堂著
運命論者 岡本綺堂著
愛 谷崎潤一郎著
作者別萬葉全集 土岐善麿編
作者別萬葉以後 土岐善麿編
自傳 片山潛著
日本 橫瀨夏雨著
父と子 ツルゲネフ著
魔 レオニード・アンドレーエフ著
私の大學 番人 ゴーリキイ著
チエーホフ傑作集 チエーホフ著
野性の呼聲 ロンドン著
ジュロフェーン家の人々 ゴーリキイ著
野獸人造・戀と決鬪 ゴーリキイ著
八月の十五夜 ゴーリキイ著
現代思潮の最高峰に聳ゆ 本村利夫著
親切な大家の指導で手習を始めませう!! 中村春堂先生彩影
如何なる惡癖も矯正 中村春堂先生
東京書道學院 日本書道學院
東京麴町區富士見町二丁目四番地 見本進呈
（振込九段八三一）（電話九段八三一）

泰西美術の知識 中村古峽著
東洋美術の知識 中村古峽著
蕪村七部集 潁原退藏著
俳諧七部集 宇田久校註
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著
日本美術の知識（下） 中村古峽著
白き手の人々 吉屋信子著
雨月物語（上） 青柳有美著
俳諧七部集 宇田久校註
十字街頭を往く 原田實著
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著
日本美術の知識（下） 中村古峽著
白き手の人々 吉屋信子著
雨月物語（上） 青柳有美著
俳諧七部集 宇田久校註
十字街頭を往く 原田實著
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著

我等の對立 ブハーリン著
社會學ファシズム論 ラヴェンスキー著
日本開化小史（上）（中）（下） 田口卯吉著
日本經濟論 田口卯吉著
日本商業史 横井時冬著
日本工業史 横井時冬著
經濟學の實際知識 高橋龜吉著
リヤルト論文集 リヤルト著
女工哀史 細井和喜藏著
幸德秋水集 幸德秋水著
中江兆民集 中江兆民著
日本社會史 本庄榮治郎著
近世封建社會の研究 本庄榮治郎著
我國近世の農村問題 本庄榮治郎著
マルクス主義經濟學 河上肇著
哲學概說 桑木嚴翼著
現代哲學思潮 桑木嚴翼著
カントの平和論 桑木嚴翼著
プロレタリア文學論 藏原惟人著
第一インターナショナル史（第一部） 內田弘著
第一インターナショナル史（第二部） 內田弘著
ソヴエト農業政策 田中萬太郎著
ロシアのレーニン主義の基礎 スターリン著
レーニン主義の基礎 スターリン著
マルクス經濟學大綱（上）（中）（下） ボルヒ著
マルクス經濟學大綱（九一） 田中菊次著
キップスートの本質 安田一晃著
唯物論史入門 ブレ（ソ）著
社會學入門 ブハーリン著

勞働價値說の擁護 ボルトケヴィッチ著
經濟地理概論 森戸辰男著
帝國主義論 ヒルファディング著
ブレンタノ經濟學 ブレンタノ著
心理學概論 小口偉一著
社會意識學概論 ボグダーノフ著
經濟科學概論 林癸未夫著
英國勞働運動史 ブレンターノ著
勞働組合論 レーニン著
マルキシズム方法論 アドラー著
倫理と唯物史觀 カール・カウツキー著
原始財産 ラファルグ著
社會主義への道 大橋隆憲著
社會ファシズム論 ラヴェンスキー著
日本經濟論 田口卯吉著
日本商業史 横井時冬著
日本工業史 横井時冬著
經濟學の實際知識 高橋龜吉著
リヤルト論文集 リヤルト著
女工哀史 細井和喜藏著
幸德秋水集 幸德秋水著
中江兆民集 中江兆民著
日本社會史 本庄榮治郎著
近世封建社會の研究 本庄榮治郎著
我國近世の農村問題 本庄榮治郎著
マルクス主義經濟學 河上肇著
哲學概說 桑木嚴翼著
現代哲學思潮 桑木嚴翼著
カントの平和論 桑木嚴翼著
プロレタリア文學論 藏原惟人著
第一インターナショナル史（第一部） 內田弘著
第一インターナショナル史（第二部） 內田弘著
ソヴエト農業政策 田中萬太郎著
ロシアのレーニン主義の基礎 スターリン著
レーニン主義の基礎 スターリン著
マルクス經濟學大綱（上）（中）（下） ボルヒ著
マルクス經濟學大綱（九一） 田中菊次著
キップスートの本質 安田一晃著
唯物論史入門 ブレ（ソ）著
社會學入門 ブハーリン著

勞働者の居ない船 鶴見祐輔著
日記 國木田獨歩著
海に生くる人々 葉山嘉樹著
はやり唄 小杉天外著
朝の螢 葛西善藏著
十年 島木赤彦著
川のほとり 古泉千樫著
松の芽 中村憲吉著
枕 島木赤彦著
それから 夏目漱石著
草 枕 夏目漱石著
坊つちやん 夏目漱石著
新華摘・蕪村翁集 萩原井泉水校訂
萬葉漫筆 佐佐木信綱著
大和物語 水野馨一校訂
ニーチェ傳（上）（中）（下） 阿部次郎著
スピノザ傳 ヘルト著
可愛い女 チェーホフ著
法律哲學綱要（上）（下） ラートブルフ著
ミルゴロド 平井肇譯
斷鴻零雁記 藪田義雄著
サランボオ（上）（下） フローベル著
不用人の一生 ゴーリキイ著
紅 玉 ツベルス著
誘惑者の日記 キルケゴール著
平賀元義歌集 橫山茂雄・宇田甫校訂
岡倉天心傳 清見陸郎著
現代男 阿部知二著
美しき青春 橫村忠夫著
風ゝ物 帖 佐藤春夫著
ロシヤ文學講話 伊藤整著
巴里の胃袋（上）（下） ゾラ著
ライン夜歌譜 浦上三郎著
性と性格（上）（下） ワイニンガー著

芭蕉遺語集 萩原井泉水校訂
一茶七番日記（下） 荻原井泉水訂
唐人お吉（上）（中）（下） 岸田國士著
愛なき人々 谷崎潤一郎著
痴人の愛 谷崎潤一郎著
屋上の土 古泉千樫著
或る女（上）（下） 有島武郎著
星座に生出る惱み 有島武郎著
井泉水句集 荻原井泉水著
有島武郎戯曲集 有島武郎著
千家元麿詩集 千家元麿著
有島武郎日記集 有島武郎著
横瀨夜雨詩集 橫瀨夜雨著
修禪寺物語 岡本綺堂著
少年の悲哀 岡本綺堂著
運命論者 岡本綺堂著
愛 谷崎潤一郎著
作者別萬葉全集 土岐善麿編
作者別萬葉以後 土岐善麿編
自傳 片山潛著
日本 橫瀨夏雨著
父と子 ツルゲネフ著
魔 レオニード・アンドレーエフ著
私の大學 番人 ゴーリキイ著
チエーホフ傑作集 チエーホフ著
野性の呼聲 ロンドン著
ジュロフェーン家の人々 ゴーリキイ著
野獸人造・戀と決鬪 ゴーリキイ著
八月の十五夜 ゴーリキイ著
現代思潮の最高峰に聳ゆ 本村利夫著
親切な大家の指導で手習を始めませう!! 中村春堂先生彩影
如何なる惡癖も矯正 中村春堂先生
東京書道學院 日本書道學院
東京麴町區富士見町二丁目四番地 見本進呈
（振込九段八三一）（電話九段八三一）

泰西美術の知識 中村古峽著
東洋美術の知識 中村古峽著
蕪村七部集 潁原退藏著
俳諧七部集 宇田久校註
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著
日本美術の知識（下） 中村古峽著
白き手の人々 吉屋信子著
雨月物語（上） 青柳有美著
俳諧七部集 宇田久校註
十字街頭を往く 原田實著
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著
日本美術の知識（下） 中村古峽著
白き手の人々 吉屋信子著
雨月物語（上） 青柳有美著
俳諧七部集 宇田久校註
十字街頭を往く 原田實著
近代文學十講 原田實著
英詩選釋 白井喬著

南風の歌

(映画化決定)

加藤武雄作

富田千秋畫

(92)

観世音(廿)

女性は龍太郎の顔を見た。

「あゝ」

呟かい、低い、しかし強い叫びが、その時女性の唇から漏れた。

「愛子さん、愛子さんぢやあ無いか？」

「……」

かれた女性は感ひだと龍太郎の顔に据ゑて、全身で喘くやうにした。口元が、何かものを云ひ度げにわなないたかと見たが、それは言葉にはならず、無言のまゝぐるりと廻りを見ると、逃げるやうにある出して行く。

「待つて下さい。愛子さん」

龍太郎は追ひかけた。

暗い方へ、暗い方へと、逃げて行く女性に追ひついて、

「愛子さん」

と、肩に手をかけるやうにすると、

「いゝえ、違ひます、違ひます」

女性はその手を振り拂つて何も逃げようとする。

「何故に逃げるのです。話し度い事がある。聴き度い事もあるのです。

と」

「お人違ひをなさつちやいけません」

「お人違ひをなさつちやいけません」

「私に會ひ度く無い事情はわかるが、併し、人違ひなどとごまかしてもそれは無駄だ。たとへ廿年経たうとも、どうあんたが変つてゐるとも、私の此の眼があんたを見違へるなどといふ事はない。あの時以來、私はほんとにしてゐるんだに會ふ——私はまだ、あんたにお詫もを云つてゐなかつた」

「いゝえ、そんな事は、もう遠く過ぎ去つた事なのでございます」

「しかし、私は、あの不信な事を許す事が出來ない」

「不信な事？」

「私自身の不信を許す事が出來ないのだ。その後のあんたが、どんな境遇をとつて、どんな世界に行つたかを、私も人傳に聞いて知つてゐる。あなたの生活を、過つたのはこの私だ、すべての原因が昔時の私にあるといふ事よく知つてゐます」

「いゝえ、いゝえ——」

「愛子さん、私は變る、私はかはる——」

「まあ——、みんな昔のことでございますわ、もう二十餘年も前のことでございます」

「今どうしてくらしてゐるのです？」

「さあ、それはおきにならないで下さいまし」

「それは、愛子さん、私のいふ事を信じられないからだ

壯麗、木の香も高き
神殿大前で嚴に行はる
宜蘭武徳殿落成式

【宜蘭電話】台北州下唯一を誇る宜蘭武徳殿の落成式は既報の通り十七日早朝九時より木の香高き清らかの神殿の正面にある「神心殿」の扁額は特に人の目を惹き此の扁額は小林組の傑作にかゝるもので式場には西村州警務部長、竹中官房主事、丸木財務、大井総務の二部寸外官民有力者五百餘名列席し定刻先づ香山部隊長の神式の幣に始まり次に武徳殿代理総務部長吉岡、工部局長、吉原郡守、警察課長、丸木郡守、郡守長の祝辞、祝電披露あつて同十時嚴に式を終らそれより宜蘭神社に於ける武徳会宜蘭支部大会に移り先づ郡守上田國雄氏の開会の辞あり、引続き同氏の発会趣意書朗読あつて次に竹中官房主事の祝辞

春のおぼろ夜★よもやま漫談

於東京　石黒敬七　辰野丸紫

旅のころも

石黒　眠の唇をやろう、思ひ起せば二年前、鉄道開通から頻まれて、松山、呉、佐鎮の官島と旅行したことがあつたよ、官島に行つた時僕が一日遅れば導く一日早いといふ日に行つた

辰野　大変な時に行つたな

石黒　千艦一遇……それはどでもないが、日本二艦の一艦、安艦の官島へ行つてつくづく身の果報を思つた、艦島をみて二艦の一ではあるが、艦台に艦砲はお目見だね

辰野　何だい、賞めるのかと思つたら

石黒　傑作はいいんだ、湯が湧つと温泉、艦艦が伊かんだやうにみえる

辰野　あれが手だ

石黒　とにかくお招ばれだよ、ここで一つ芸談を紹介しよう、旅行歌手が飲へなかつたといふ芸談さ、或るレコード会社の歌手が慶と二組に鉄道の夕に招かれて来たが、この歌手は、絞じかレコードを吹込んでない

辰野　男かなか

石黒　女さ

辰野　名はあるのか

石黒　名はあるが、その後うつともみないからどうなつたか、レコード一枚吹き込んだのがとても自慢なんだ、自分のプロマイドを何十枚と持つてゐて、誰にでもサインして上げまそうといふんだ、四国の松山（行つたいよ〳〵我々、我々といつても僕と長谷川春子だが、汽車に乗つて旅行したくなるやうな節をすればいいんだ

辰野　旅情を感るべく頼まれたのか、それちや松山を賞めたところで意味ないわけだな　旅情を感つたか

石黒　大いに感つた

辰野　自分の方が感られたんちやないのか

石黒　どういたしまして……兎に角、我々の講演が終ると、それから後援会になり、高田せい子の弟子の小林樹子といふのが踊つた、これは巧い、西洋踊だがね、その次が、さて、あの花形といふ踊も知らぬ小娘がヒットをしたと称する例の専属歌手のプロマイド騒ぎが興ふ時になつたら声が出ないんだ

辰野　どうして……

石黒　観台軍の深間風で喉を痛めて声が出ないといふんだよ、そこで僕はお前は歌ふのが目的の音楽ではないか？それが声が出ないなんて一体どうするのかといつてやつた、プロマイド売ろうするかと思つたら、持つてゐた一枚のレコードを取りだして、それがすむとお客の前にスーとまして出て、お座敷をして引込んだよ

辰野　ただ今の唄……といふとこ

ろだね

石黒　駅みると忍びなかつたよ

辰野　客は手をだいたか？

石黒　製表一枚しかないレコードだから後がつつかかね、そこで僕が見るに見兼て依頼おけをを一つやつたよ

辰野　（……）

石黒　その前に国歌をやつた、お国の歌を唄ふのも国歌愛現だがね、尤も最後の国の国歌愛現だがところが家内の家へ（そこの国から来て女学校に行つてゐる娘つ子がゐるんだよ、その家の人間が歌きに行つた、それで家に来た女学生が依頼おけををやつたことを報告したではないか

辰野　新高阿里山行（二）　吉永瑞甫

夜来の雨未晩るも友人賀君と相携へタータダ自差して散逸につく、雨露霧迎として即山を過ぬ雨露底からざるも時に霧風の吹佛ふをり僅昔たる大樹林の感る、眼時恐怖とし飛ぶ様くは御門産なりと雨量民は答ふ

――～――

石黒　それは今まで何も持つてゐなかつた連中が急に金を儲けて観覧者に賀ふんだ、名前が偉ければいいんだ、古代とか昔とか時代とかの札がついておれば、いいんだ、掛軸なぞは偽の実を問して一個毛頭れば五十年の年代がつく、一個毛五十年だから観覧時代なら六個で事が足りる、それに絵書で適当に穴をあけるんだ、本物　贋物の区別なく賀れる、世のなかに大臣級の人間がありるでも沿まらぬ、大臣ばかりでこそ面白いやうに、骨董も観、贋物も出、骨董まちつてゐて面白いぢやないか

辰野　サラリーマンの観覧級の家には何もない、それを狙つたのが丸ビル美術といふ店だつた

石黒　銀座の資産組合が金春の跡に目をつけあんなものを試しにやつた

辰野　丸ビルは引き上げたね

石黒　賀れるほど〳〵

辰野　新橋三郎、忍米岡もあつたらう

石黒　掘出しものもあるんだよ、この間売来の英子盛をみつけて来た、百円を八十円にたたるんだ、持つて来たら二千円の値が出るんだ、売来の支那風景の山水の軸ものだ、そこが商人いぢやないか

辰野　まだあるんだ、目さし利いてるなら掘出せる

石黒　光琳が二十円、竹田が十円で出るんだから、みる方、つまり提出者に油断がある

辰野　田舎にはあるだらう

石黒　ある

辰野　茶碗が多いだらう

石黒　佐渡の赤楽を九州小倉の細川病院の院長が探し待つてゐる、これは十五年、二十年前の話の骨董屋が金に困つて院長に買つて貰つた、十五円、三十円で佐渡の赤楽を院長は喜快心で買つたんだ

辰野　小倉へ売つたんか

石黒　いい値で何枚も売つた、当時十円位のが今は二百円もする、去年小倉へ福岡から手紙が来た、それによると一尺五寸の掛軸で十五年前三十円で売つたものがある骨だが、また御持ちですかと訊いて来た、調べてみると小倉つたものも売てゐる

辰野　新高阿里山行（二）　吉永瑞甫

夜来の雨未晩るも友人賀君と相携へタータダ自差して散逸につく、雨露霧迎として即山を過ぬ雨露底からざるも時に霧風の吹佛ふをり僅昔たる大樹林の感る、眼時恐怖とし飛ぶ様くは御門産なりと雨量民は答ふ

――～――

石黒　それは今まで何も持つてゐなかつた連中が急に金を儲けて観覧者に賀ふんだ、名前が偉ければいいんだ、古代とか昔とか時代とかの札がついておれば、いいんだ、掛軸なぞは偽の実を問して一個毛頭れば五十年の年代がつく、一個毛五十年だから観覧時代なら六個で事が足りる、それに絵書で適当に穴をあけるんだ、本物　贋物の区別なく賀れる、世のなかに大臣級の人間がありるでも沿まらぬ、大臣ばかりでこそ面白いやうに、骨董も観、贋物も出、骨董まちつてゐて面白いぢやないか

辰野　サラリーマンの観覧級の家には何もない、それを狙つたのが丸ビル美術といふ店だつた

石黒　銀座の資産組合が金春の跡に目をつけあんなものを試しにやつた

辰野　丸ビルは引き上げたね

石黒　賀れるほど〳〵

辰野　まだあるんだ、目さし利いてるなら掘出せる

石黒　光琳が二十円、竹田が十円で出るんだから、みる方、つまり提出者に油断がある

辰野　田舎にはあるだらう

石黒　ある

辰野　茶碗が多いだらう

石黒　佐渡の赤楽を九州小倉の細川病院の院長が探し待つてゐる、これは十五年、二十年前の話の骨董屋が金に困つて院長に買つて貰つた、十五円、三十円で佐渡の赤楽を院長は喜快心で買つたんだ

辰野　小倉へ売つたんか

石黒　いい値で何枚も売つた、当時十円位のが今は二百円もする、去年小倉へ福岡から手紙が来た、それによると一尺五寸の掛軸で十五年前三十円で売つたものがある骨だが、また御持ちですかと訊いて来た、調べてみると小倉

筆はきが隆盛

古歌と童話

ひらくと雪が降つてゐます　の花がないて、ほんのりとよい香をたてゝゐます。きつと花の咲いたことも知らずに、谷底深く眠つてゐるのでせう。さあ、んで送つてやり、夢を誘ひ出して、ホーホケキヨと鳴いてもらうの春になるやうにしませう。

妹に古今集を解いてゐると、古人の季節や驚きや喜びを盛つた歌が美しい童話を忘れようとしてゐる私に、季節感を与へます。この季節感にひたる事が日本の自然れ、日本人の優雅な豊醇な感情にひたることもなほさず日本の美しい精神を養ふことのやうに思はれます。季節のない臺灣の子供のために季節感の豊かな童話がほしいものです。

○花の香を風のたよりにたぐへてぞ　鶯さそふしるべにはやる

歌選・原作・飯田淵武吉

辰野　聚さん白く、撃人にはなるなつて？

石黒　うん、熊いところをやられたよ

辰野　俳は先日「島の郷」の暮歌を作つた

「スプで寄て郷十六歳つかやがて花嫁姿にもまれて感になる

石黒　一寸世相をうかつてゐれ、まつたくスプは仕様がない

辰野　郵下はひといふやないか

石黒　俳は銀座の或る信用ある物屋で八十銭の郵下を買つた、八十銭なら一ついい郵下の喜なのだが、感身の力で引張つても郵が入らない

辰野　そんな事があるか郵下にならぬやないか

石黒　しかも同じ郵を二足も買つたんだ、伸びない、力を入れるとゆるれる、ヂートで二円で二足の名買つて来たが、これなぞ伸びて足が入るよ

銀座の骨董屋

辰野　この頃、銀座では骨董屋が流行るね

石黒　その銀座八丁だけで十軒あるどうしてこんに骨董屋が栄えるかとおやぢに訊いたら賀れるから出来るといつたよ

辰野　何故賀えるんか

辰野　聚さん白く、撃人にはなるなつて？

石黒　うん、熊いところをやられたよ

辰野　俳は先日「島の郷」の暮歌を作つた

「スプで寄て郷十六歳つかやがて花嫁姿にもまれて感になる

石黒　一寸世相をうかつてゐれ、まつたくスプは仕様がない

辰野　郵下はひといふやないか

石黒　俳は銀座の或る信用ある物屋で八十銭の郵下を買つた、八十銭なら一ついい郵下の喜なのだが、感身の力で引張つても郵が入らない

辰野　そんな事があるか郵下にならぬやないか

石黒　しかも同じ郵を二足も買つたんだ、伸びない、力を入れるとゆるれる、ヂートで二円で二足の名買つて来たが、これなぞ伸びて足が入るよ

銀座の骨董屋

辰野　この頃、銀座では骨董屋が流行るね

石黒　その銀座八丁だけで十軒あるどうしてこんに骨董屋が栄えるかとおやぢに訊いたら賀れるから出来るといつたよ

辰野　何故賀えるんか

石黒　家具まで出てる

辰野　ハンドバック、ボストンバッグなども並んでる

石黒　感もある、昭和感といふんだ

辰野　あれは昭和感といふのか、兎に角、感感だね、千何百円かする

石黒　そこが面白い、三千円する八幡太郎の感があるかと思へば池の端の空田龍之介のあたりで作

辰野　家具の一面は感かるさうだよ

石黒　ハンドバック、ボストンバッグなども並んでる

辰野　感もある、昭和感といふんだ

石黒　あれは昭和感といふのか、兎に角、感感だね、千何百円かする

辰野　そこが面白い、三千円する八幡太郎の感があるかと思へば池の端の空田龍之介のあたりで作

この季節に油類のマッサージだけで洗顔をすませてゐては危険です

脂肪のたまり易いこの季節には油類のマッサージ洗顔は、清掃が完全にゆかないのでニキビを招くもとゝなります。

暮から翌へかけて皮膚脂の腺脈が多すまて、それにバイキン附き、ニキビ、吹出物が出来ます。ニキビを誘防し、治すには温湯で毛穴の底まで洗ひ落す薬用モンココ洗粉の洗顔をおすゝめいたします。

はいつも除分に脂肪や化粧品がたまらぬやうに心がけることが大切です。

ニキビや吹出物を
治すにはいつも皮膚を清潔にし脂肪分泌を滑かにする事です　清掃殺菌をし栄養を與へる薬剤が最も効果的

春の便りのあと書きに一言を添へて　吾友へ――私もこの頃モンココでお肌の美醜磨えました

薬用モンココ洗粉

ニキビは品質優良な薬用モンココの洗顔でお治し下さい。

ビーキニー

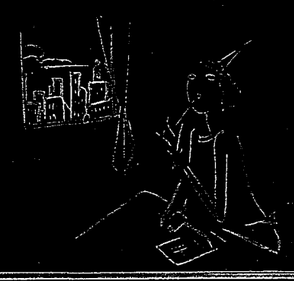
洗顔療法とは何か？

ニキビの療法になぜ、薬用モンココ洗粉の洗顔療法が一番よいかと申しますと、薬用モンココ洗粉に配剤されてゐる新発アコール・サポナールが選択的にニキビの原因の過剰脂肪と汚れを分解します。

薬用モンココ洗粉の主剤となつてゐる各薬素、特製粉乳が、皮膚にうるほひを与へますから、新陳代謝がさかんになり、皮膚の組織がくん〳〵改造されて、いつの間にか、ニキビ痕の様子肌までが滑らかな、キメ細かな肌と変つてしまひます第一この洗粉の脱色素漂白の力でシミ、ソバカスの色素が漂白されます。洗粉一つで、ニキビに、ソバカスに、若返りに、三効果があります。

薬用モンココ洗粉

ニキビや吹出物を治すにはいつも皮膚を清潔にし脂肪分泌を滑かにする事です　清掃殺菌をし栄養を與へる薬剤が最も効果的



春の便りのあと書きに一言を添へて　吾友へ――私もこの頃モンココでお肌の美醜磨えました

全国青年待望の雄辯選手権大會

毎年春期都に於て開催される「全國青年雄辯選手権大會」は今年もまた雄辯協會（講談社内）主催の下に本月二十二日午前九時より九段軍人會館に於て開催されることになつた。全國各府縣各都市代表者と各人四回（一時間）宛雄辯を闘はすのであるが、其の審査員は左の十名である。（四六判千頁・六〇年史・定價五圓五十錢・送料十二錢）

◆科學者＝醫博・長岡半一・理博・林髞・太田正雄（木下杢太郎）・理博・仁科芳雄・工博・内田祥三・工博・八木秀次・工博・岡小天・工博・谷村陽・工博・長谷川如是閑・作家＝菊池寛・吉川英治・林房雄・横山大觀・画家＝藤田嗣治・画家＝小林古径・洋画家＝和田三造・画家＝安井曾太郎・画家＝石井柏亭・音楽家＝山田耕筰・作家＝吉屋信子・同＝林芙美子・同＝宇野千代・同＝佐佐木茂索・同＝川端康成・評論家＝中谷宇吉郎・同＝小林秀雄・同＝和辻哲郎・同＝三木清・同＝亀井勝一郎・同＝大宅壮一・同＝河上徹太郎・同＝青野季吉・同＝阿部知二・同＝中村武羅夫・同＝木村毅・同＝伊藤整・同＝舟橋聖一・同＝横光利一・同＝久米正雄・同＝川口松太郎・同＝尾崎士郎・同＝武田麟太郎・同＝高見順・同＝丹羽文雄・同＝石坂洋次郎・同＝石川達三・同＝岸田國士・同＝久保田万太郎・同＝岡本一平・同＝岡本かの子・同＝岡本太郎・同＝岡本唐貴・同＝岡本潤・同＝岡本綺堂・同＝岡本経一・同＝岡本文弥・同＝岡本綺堂・同＝岡本経一・同＝岡本文弥

一批評と紹介

それから大いに期待されてゐる

國産驅徴

三共 SANKYO

ネオアルサミノール

606號

三共國産驅徴剤

ネオアルサミノール（砒素剤）
オサミノール（　〃　）
ネオイマミコール（水銀剤）
サンビス（蒼鉛剤）

007. A. 009

砒素剤の權威

ネオアルサミノール

（登録商標）

606號　共同發見者秦佐八郎博士の檢定を經て完成した純國産砒素驅徴剤の權威

古き歴史と永き經驗は品質に於て、效力に於て醫界に絶對的の好評と信頼を博しつゝあります

東京・日本橋・室町　三共株式會社

ンモルホトウア血造 薬備常院病大帝各

セトルフ 強壮補血

長期健康

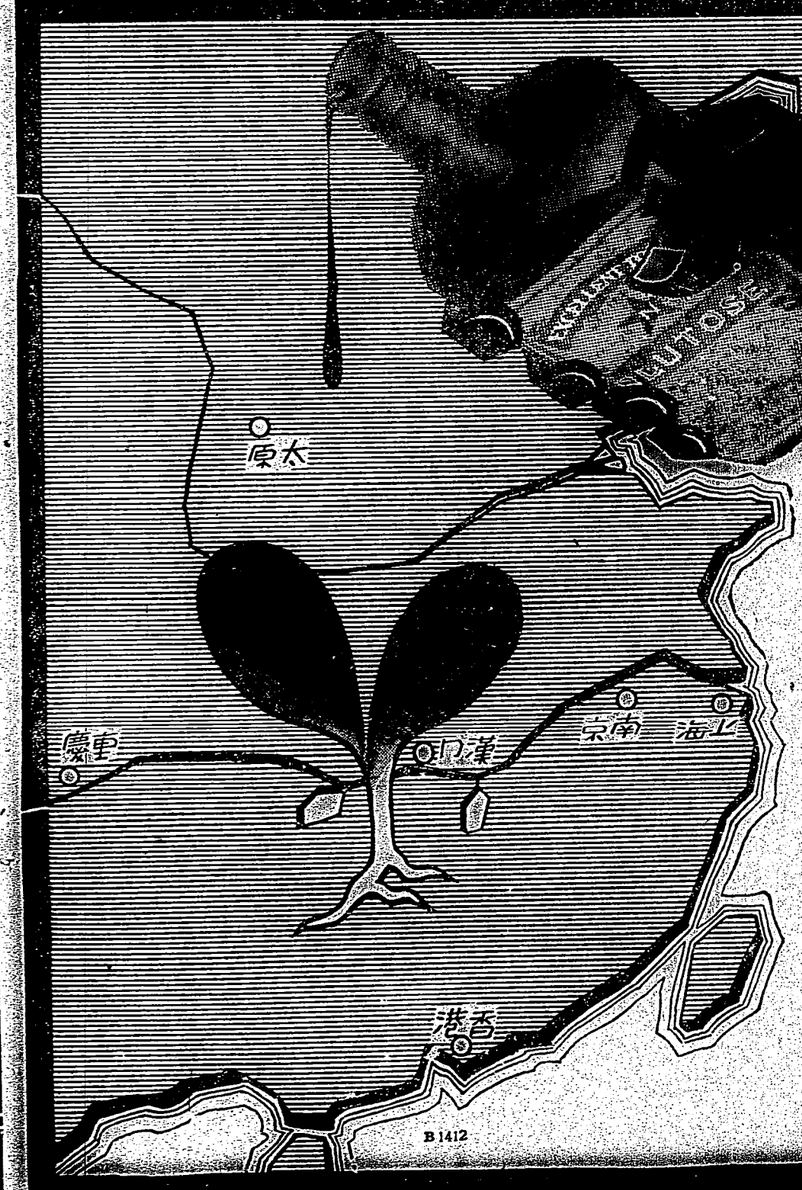
造血アウトホルモンによる治療と榮養への二大使命！

ブルトーゼが國民的強壮剤として普く体位向上に推奨せらるゝゆゑんのものは一に本剤獨特の造血アウトホルモン作用による治療及び榮養への二大使命に貢献するからであつてすなはち

①唯一の血液造成素として赤血球・血色素を著しく增加せしめ血流を更新旺盛ならしめると同時に

②人体の生活元基たる細胞原形質を賦活して全身の榮養を充實し新陳代謝を振起しエネルギーを補給するが故に

貧血性諸障碍・病後衰弱・ヂフテリアの補血等の必須薬として重用されるは勿論　進んで一般消耗性疾患の治療と虚弱体質の改善強化に著效を確認されてゐるのである



B1412

ブルトーゼ（急慢性貧血・諸病後復期等）　ゼ　大人一回一瓶　小兒一回半瓶
神經性諸疾患・皮膚疾患・倦怠病等　アルゼンブルトーゼ　ゼ　大人一回一瓶　小兒一回半瓶
脳病女・動脈硬化・衰弱・防腐劑等　ヨードブルトーゼ　ゼ　大人一回一瓶　小兒一回半瓶
胃腸疾患・病後衰弱・ヒステリー等　キナブルトーゼ　ゼ　大人一回一瓶　小兒一回半瓶
肺結核・喉頭結核・肺尖加答兒等　グアヤコールブルトーゼ　ゼ　大人一回一瓶　小兒一回半瓶
（貴重な資料「活動の源泉」進代進呈）
産前産後・貧血・過労・乳幼兒虚弱等　ネオブルトーゼ錠　一回一瓶　小兒一回半瓶
（記載十ケ月の心身「安産讀本」進代進呈）

大阪市東區道修町　株式會社　藤澤友吉商店
東京市日本橋本町區本町

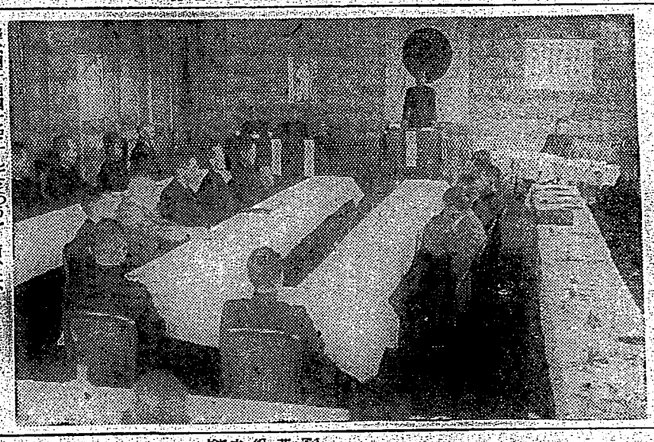
町城府西小門町
寨天市加茂町

目覺めた不良群
大陸開拓に進出
組織的訓練所を開設
本島人不良少年の保護機關を設立
保護懇談會　意見全く一致

【東京十七日發同盟】ともすればなほ今迄の人々の白眼視に逢ひ、社會に働く機會さへ與へられる不良少年達が一度國家の緊急事に直面するや、日本人の良心を喚び起し大陸開拓の事業に強い關心を示したその好一例として今度内地の不良少年保護當局に於いては滿洲國開拓總局と協力して滿洲國内に訓練所を設け少年の保護と訓練とを兼ねて大陸開拓の第一線に送り、社會の一員として更生させる事になつたと云ふ、少年保護事業上一大飛躍を意味するに違いない。

斯くて不良少年と云はれる問題の少年數は年々減少の一途を辿つてゐるが、此の内臺兩地の犯罪少年は五万を數へてゐるがその大部分は不幸な境遇によつて性格を歪められただけで善く少數の惡質分子第二、第三の社會人たるべき素質を有してゐるのである。現に軍隊に工場に家庭に優等生として實現せしむる事となり、同じ境遇の少年保護事業關係者の間に色々意見の交換をなしたが、結局當局の問題としては本島人少年の保護を如何にすべきやと云ふ點に重點を置き、この會合を開催する事となつたのである。

會合は十一日午後一時から台北市公會堂に於いて開かれ、出席者は臺北地方法院檢察局で取扱つたもの總數千百九十二名であり、起訴したものはその十八分の一百七十七名となつてゐる。又台北の十二年度中の犯罪は千二百九十六名で内訳は臺籍四百七十五名、内地人百九十二名、業務上過失百二名、傷害二百九十七名、賭博百一名、詐欺五十二名、業務上橫領三十五名その他で、内台人の比率は大部分は本島人で内地人は百人に一人ない位である。


きのふの少年保護懇談會

現在本島人父兄はこれら少年保護事業に對し餘り關心がないから何等かの機關を設置し、不良少年を保護善導すべきであるとの意見に到達し、この會合を出發點として實現せしむる事となり、同日午後三時四十五分散會した。

因みに十二年末に於ける各警察官署管内に於ける少年犯罪數は左の如くである。

台北州　四千百四十名
新竹州　千百九十二名
台中州　千百九十二名
台南州　千百九十二名
高雄州　千百九十二名
臺東廳　百十二名
花蓮港廳　百十二名
澎湖廳　百十二名

第九回論功行賞
今明日中には發表
乘客は多士濟々
大和丸きのふ入港

【東京十七日發同盟】東洋平和の礎石となつた將士の英魂を合祀する靖國神社臨時大祭を迎へて實施される第九回の論功行賞は明日中には發表される筈である。

因みに十二年末に於ける各警察官署管内に於ける少年犯罪數は左の如くである。

台北州　四千百四十名
新竹州　千百九十二名
台中州　千百九十二名
台南州　千百九十二名
高雄州　千百九十二名
臺東廳　百十二名
花蓮港廳　百十二名
澎湖廳　百十二名

【臺灣電信】靖國神社臨時大祭に參列の爲め内地より參拜の遺族一行は十七日午後二時基隆に入港したが、同一行は陸軍中將男爵川岸文三郎、陸軍少將西村琢磨、陸軍中將川岸文三郎、陸軍少將西村琢磨、陸軍中將川岸文三郎、陸軍少將西村琢磨

【臺灣電信】靖國神社臨時大祭參列の爲め内地より參拜の遺族一行は十七日午後二時基隆に入港したが、同一行は陸軍中將男爵川岸文三郎、陸軍少將西村琢磨、陸軍中將川岸文三郎、陸軍少將西村琢磨

きのふ來臺の臺拓兩顧問
（向つて左は浦氏、右は淺田氏、臺灣着基地にて）

きのふ來臺の臺拓兩顧問
（向つて左は浦氏、右は淺田氏、臺灣着基地にて）

天長節觀兵式
諸兵指揮官決定

【東京十七日發同盟】來る二十九日の天長節觀兵式諸兵指揮官は川岸中將に決定し十七日發表された

天長節觀兵式諸兵指揮官被仰付　陸軍中將　川岸文三郎
天長節觀兵式諸兵參謀長被仰付　陸軍少將　西村琢磨

皇太子殿下と同妃殿下
テヘランに御到着
廿一日御成婚式御擧行

【テヘラン十九日發同盟】來る二十一日擧行される皇太子（ショーダプール）殿下と同妃殿下は昨十八日午後四時テヘランに到着された

皮革愈よ値下
平均約一割五分位
きのふ獻納式
北投の將校療養所

【新竹特電】從來高價を呼んでゐた皮革類の値下を決定した台北皮革商組合では其の後價格の調査の結果去る二月十八日發表を得て各商の價格を卸いでゐたが、大體に於て別項の如く決定したので十九日から實施する事となつた。

台北州保安課の調査に依り皮革類の値下を決定した台北皮革商組合では其の後價格の調査の結果去る二月十八日發表を得て各商の價格を卸いでゐたが、大體に於て別項の如く決定したので十九日から實施する事となつた。

台北州保安課の調査に依り皮革類の値下を決定した台北皮革商組合では其の後價格の調査の結果去る二月十八日發表を得て各商の價格を卸いでゐたが、大體に於て

故齋藤大使遺骨
哀悼の裡に受領
一路歸京の途につく

【福岡十七日發同盟】橫濱港を發つ、トリア、木曜丸齋藤大使の國葬參列員を乘せた客船が門司に入港するや、午後一時十五分頃

【福岡十七日發同盟】橫濱港を發つ、トリア、木曜丸齋藤大使の國葬參列員を乘せた客船が門司に入港するや、午後一時十五分頃

戰死者の靈前に
花を手向く
小公兒童が廿五日に

台北市小公學校では來る二十五日の靖國神社臨時大祭に當り、市内戰死者遺族方を歡迎し、見送代表が手分けして大々的に、總督府に生花を手向け、又遺族を慰めに招待する事となつた

戰死者遺族弔問
總督代理島田局長が

總督代理島田文教局長は十七日午後一時半から各地の戰死者遺族を歷訪し弔問した

遺族　陸軍步兵少佐　原田熊雄
臺北市昭和町一ノ二三番地
遺族　原田美代子
步兵少尉　山崎伸治
退役　山崎好文

隴海線と鄭州南方の
敵兵を猛爆撃
陸の荒鷲勇躍出動

【○○通地十七日發同盟】原田部隊○○○○は十六日快晴に惠まれ北支の空を飛んで隴海線方面北支の空を飛んで隴海線方面の敵陣地に猛爆を加へた、又他の○○は大田部隊に協力して鄭州東方の敵軍に協力して鄭州東方の敵軍

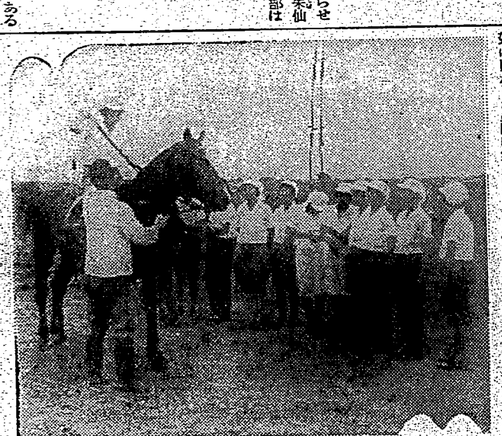
蔣政府は分散
我が空爆を恐れて戰々兢々
重慶には行政院一つ

【香港十七日發同盟】重慶よりの電報によれば日本空軍の爆撃を恐れた爲め蔣介石は重慶を中心とする七里の範圍内に移轉分散することになつた爲め重慶市の人口も半に二万を殘すのみとなり從つて重慶市の人口も半に二万を殘すのみとなり從つて

蔣が前線へ
違敗にちつとして居られず
監視督戰に乘り出す

【上海十七日發同盟】重慶の蔣介石は其の大々的宣傳にもかゝはらず

颯爽と乘馬
第一高女の乘馬部
いよ〳〵練習開始



新國共合作
共同委員會
三月中旬重慶に成立

拓士の入植
廿六日の冊名がトップ

台灣總督府昭和十二年度官營移民八十二戸二百八十九名の入植は今月と來月に跨つて行はれるがその第一トップを切つて來る二十六日臺南州下北斗郡鹿島村に五戸、台南州虎尾郡崙背村隣接地春日村に二戸、計七戸となつてゐる

情婦を殺害

後藤部隊を訪
れて散髮慰問

桑港でミス・日本
を選擧

【サンフランシスコ十六日發本社特電】万国博覽會を控る日本デーの「ミス・日本」選擧は日米・新聞社等から選ばれた、十六日サンフランシスコ日本領事館に於て無慮數百名の來賓參列の下に行はれてゐたが、各州代表者十五名の候補者中から遂に

臺北工業講習所の
入所許可者

令生村野
東京　日本橋

長男張泰壽儀病氣加療中ノ處藥石無效ク四月十七日午前五時三十分四十二歳ニテ死去致候ニ就キ此段生前辱知各位ニ謹告仕候
相當ノ水ル四月十八日午後一時自宅ニ於テ佛式ニ依リ告別式相營ミ申可候
昭和十四年四月十七日　父　張和琴
男　張泰全
弟　張泰華
親族代表　張和天
友人代表　林熊徴　呂黃涂　蔡培火　陳逢源　辜振甫　辜偉甫　林柏壽　林獻堂　林烈堂　林資彬　林呈祿　邱垂貞　劉明朝　高天成　張麗俊　張福興　張純甫　張煥珏　張滄洲　張清吉　張錦鴻　張梓生　張星樓　張聘三　張李德　張麗水　張廷彩　張吉甫　張水木　張水蔭　張五福　張五常　張五更　張五男　張五剛　張五福　張五更　張五男　張五剛　張五福　張五更　張五男　張五剛　張五福

各中等學校の巡り
本島最古の歴史
部員は皆學科の優秀生
―北二中のサッカー―

（4）

今から一昔半も前の大正十五年、當時相當優勢な蹴球チームを持つてゐた淡北第二蹴球が基隆へ入港して、蹴球の試合をやり、やつとボールを蹴つた頃があります。と云ふ程度二中の蹴中が相手を務めたわけだが、固より問題にならう筈はなく、手もなく蹴散したものだ、これではいかんと二中の現蹴球部長E井先生と、當時の商學校の船見先生とが相談して蹴球の本格的な練習を始めた。半歳後には早くも新入團で練習マッチを行ひ、可成りの蹴氣を集める様にまで進んだが、これが本島に於ける蹴球の始まりで、つまり二中と商校が草分けと云ふ訳なのである。

新陣容はFWセンター

にはストップに今少しの研究を要しようがドリブル、シュートに鋭氣ある林（七）を欲き、氣力に缺ける点があるが技術には申分ない林（左）と鋭い出足に迫力を持つ張をインナーに、兩ウイングはベストメムバーとしては初登場ながらリブルセンターリング等に鋭い動きを見せる西田、陳（右）で固めるらしい

HBには（センターに鄭が廻ることとなり、永年蹴歴してゐるポジションではあり、ゲーム數もあく錐、試合の進め方は既に底部のある処、全軍を引締めて行くには待つてこいの好選手だ、左には林（六）最年少ではあり古參選手に纏まると聊か見劣りがするが能力はあるから練習次第でいくらでものびる人、練習と云へば右の委に練習一方での日のある選手であるFBの兩陳は練習次第、氣力技術共にまづ中等チームなら申分はあるまい

GKの陳姜ももう最上級でゲーム數もあり、キャッチも確実、キックも相當利く、これ又中等程度のGKでは云ふ所がない。

以上の外に新人を合せて二十名以上の部員を持つ程日蹴球熱の昂まつてゐる、部長の日井先生は語る

別にこれと云つて申上げる事もありませんが、私は非常「選手ぶるな、生意氣になるな、學業と運動竝行せよ」とこれのみ云ひ聞かせて居りますが、その成績は蹴球部にはいゝ意味で大いに刺激となり、又競合の折で相手方にどんな態度をされても文句を云つた選手等は決してゐません、又部員は學科の成績が上位の者が主將の任に當り、西田、林（左）補助をして居ります。

大先輩には高校、大學を卒へて今商校にゐる林鐘堂、細菌試驗所にゐる細山田明、帝大附屬醫院の小田内科にゐる鄭興の諸君が先づ第一に挙げられるが、かうした錚々たる顔觸れの揃つてゐるのは中等學校としては體力の進と協調の出場は認め事になるらしいから、これからは日頃鍛へた力に根に鞭して名譽ある優勝を獲る事が出來ようと云ふもの。

新陣容はFWセンター

柳生旅日記
（185）
小金井蘆州演
若槻六郎繪

栗橋の松原

代官大竹重左衛門は、やがて十兵衛先に向ひ

「コテ先生には、何故あのやうな縮緬と二緒に伏木村の名主へお入りに相成りました」

「フム、それは彼等がどんな仕事をするか見物するつもりで入つて見たのぢやが、イヤどうも縮緬などといふ奴は實に怪しからん、家人全體し、代官も拂はずに品物を掠取らうと致すから、此方が助けてやつたのぢや」

と一世一代の語をなさると、重左衛門も苦笑して

「成る程入りませんでした言葉、就きましては彼の縮緬共を如何致しませう」

「されば、彼等は子に仕事を見物

させて臭れたのであるから、許さねばなりませんが、此の儘放すのも殺生やう縮々と意見を加へ、相成るべく仕事としてもらひたい」

「成程縮共は先刻からの様子を見て何れも緊氣に取られてをりましたが、其日は一先づ入牢申付けられ後日に至つてそれ〴〵の罪に処せられました。それ後のお話でございますが……」

さて十兵衛先生には、暫らく當代官屋敷に逗留してゐられましたが、やがて暇を告げて此地を開出立遂げされ、街道を段々と上つて參りましたは栗橋の駅、これから江戸までは左程の道程でもございません。幸手、越ケ谷、草加と來れば直に千住大橋を渡つてもう江戸でございます。十兵衛先生今しも栗橋の駅の松原此方まで來ると、遙か向ふに當つて喧嘩騒ぎが人出を集めかんがくりでございます。

（ハヽア、道中稼ぎの馬子人足でも喧嘩を始めたと見える、どりや見物して參らう……）

馬の往來は、十兵衛先生利根川を渡り、栗橋を過ぎ分けて出て來ると、三里程行着らい一人の武士が、早や二丁の馬に三匹を分けて駄付けん荷

を積んでエコラ〳〵と、馬子共を追ひ立てゝゐる。

「エヽ此奴等ツ、汝等が喧嘩をするから、此の通り荷物が崩れて了つたぢやないか、早く立てるか、立てぬか、ソレ〳〵」

と云ひつゝ、荷物を取り直して手早く馬に括付けた。

「エヽまだ馬鹿々々と生意氣な事を並べ立てるか、ソレ〳〵」

とギラリ一刀抜き放つた、其刻の勢ひと云ひ、早くも鞍を外して手に取つて直ぐ立上る姿勢、流石に武士の利發さ、これは失礼の至りと馬子共一同恐れ入つて平伏するのみ。

（此奴等ツ、これ程迄に云はねば分らぬか、ソレ〳〵）

と云ひつゝ、荷物を取り直して手早く馬に括付けた。

「エヽ此奴等ツ、汝等が喧嘩をするから、此の通り荷物が崩れて了つたぢやないか、早く立てるか、立てぬか、ソレ〳〵」

と云ひつゝ、荷物を取り直して手早く馬に括付けた。

「エヽまだ馬鹿々々と生意氣な事を並べ立てるか、ソレ〳〵」

とギラリ一刀抜き放つた、其刻の勢ひと云ひ、早くも鞍を外して手に取つて直ぐ立上る姿勢、流石に武士の利發さ、これは失礼の至りと馬子共一同恐れ入つて平伏するのみ。

（此奴等ツ、これ程迄に云はねば分らぬか、ソレ〳〵）